

# 四日市大学社会連携報告書 四日市大学 COC 事業報告書

平成 30 年度



# 目次

---

はじめに	1
<b>1. 社会連携センターの活動</b>	<b>2</b>
1-1 社会連携センターの動き	
1-2 研究機構	
1-3 コミュニティカレッジ	
1-4 ボランティアセンター	
1-5 地(知)の拠点整備事業(COC) (平成 26～30 年度)	
1-6 数字で見る COC 事業(平成 26～30 年度)	
<b>2. 地域と連携する授業</b>	<b>8</b>
2-1 四日市学(全学共通)	
2-2 市民教育(全学共通)	
2-3 人権論(全学共通)	
2-4 地域社会と環境(全学共通)	
2-5 地域防災(全学共通)	
2-6 ボランティア活動 a、b(全学共通)	
2-7 キャリア基礎Ⅲ(全学共通)	
2-8 インターンシップ(全学共通)	
2-9 まちづくり研究/コース別研修(全学共通)	
2-10 祭りとまちづくり(総合)	
2-11 鉄道とまちづくり(総合)	
2-12 コミュニティ論(総合)	
2-13 地方議会論(総合)	
2-14 NPO 論(総合)	
2-15 地域開発論(総合・経済)	
2-16 起業論/アントレプレナーシップ論(総合・経済)	
2-17 四日市公害論(環境)	
2-18 地域環境論(環境)	
2-19 環境研修 b(環境)	
2-20 環境土壌学(環境)	
2-21 音楽とまちづくり(総合・環境)	
2-22 経済経営特殊講義 a、b(経済)	
2-23 地域産業論(総合)/地域企業セミナー(経済)	
2-24 地域連携特別講義 a(全学共通)	
2-25 行政法(総合)	
2-26 食とまちづくり(総合)	
<b>3. 高大連携</b>	<b>21</b>
3-1 環境情報学部の高大連携授業	

3-2	総合政策学部の高大連携授業～北星高校の1年生ゼミへの参加	
3-3	3学部共同の高大連携授業	
3-4	東日本大震災救援活動と学校間連携	
<b>4.</b>	<b>教職員による地域活動</b>	<b>25</b>
4-1	留学生による地域社会との交流	
4-2	高校生フェンシング選手のメンタルサポート活動	
4-3	一般社団法人四日市とんてき協会	
<b>5.</b>	<b>学生による地域活動</b>	<b>28</b>
5-1	四日市大学ボランティア部	
5-2	地パト(四日市大学地域パトロール部)	
5-3	四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」	
<b>6.</b>	<b>生涯学習・公開講座</b>	<b>31</b>
6-1	みえアカデミックセミナー	
6-2	四日市大学公開講座	
6-3	四日市市民大学 一般クラス	
6-4	履修証明プログラム	
6-5	社会人を受け入れる教育プログラム	
<b>7.</b>	<b>調査研究</b>	<b>36</b>
7-1	四日市大学研究機構 関孝和数学研究所	
7-2	四日市大学研究機構 公共政策研究所	
7-3	四日市大学研究機構 生物学研究所	
7-4	四日市大学研究機構 環境技術研究所	
7-5	四日市大学研究機構 地域農業研究所	
7-6	四日市学研究会	
<b>8.</b>	<b>四日市大学に事務所を置く NPO 等</b>	<b>42</b>
8-1	四日市北ロータリークラブ	
8-2	NPO 法人市民社会研究所	
	*NPO 法人四日市 NPO 協会の事務局	} 含む
	*NPO 法人みえ NPO ネットワークセンターの事務局	
	*公益財団法人ささえあいのまち創造基金の事務局	
8-3	NPO 法人ワークスタイル・デザイン	
8-4	一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会	
8-5	四日市大学自然環境教育研究会	
8-6	四日市東日本大震災支援の会	
8-7	メディアネット四日市	

## 資料編

<b>資料編 A</b>	<b>学外委員会での活動(委員会名・役職名のリスト)</b>	<b>49</b>
<b>資料編 B</b>	<b>学外での講演活動</b>	<b>55</b>
<b>資料編 C</b>	<b>COC 事業ホームページに掲載した記事抜粋(平成 30 年度)</b>	<b>57</b>

## はじめに

平成 24 年度末に四日市大学社会連携センターの設置、平成 25 年度に学長声明「本学の使命に基づく社会連携の推進について」(下記)が出され、四日市大学は「社会連携」を基本とすることが明確になりました。平成 26 年度に文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(以下 COC 事業)」に採択されてからは、三重県、四日市市及び地域の企業、メディア、市民団体など各界の皆様のご協力をいただきながら、名実ともに地域と共に教育・研究・社会貢献活動を進めてきました。

本冊子は、四日市大学の社会連携活動全般について、COC 事業の最終年度となる平成 30 年度分をとりまとめたものです。COC 事業については、平成 26～30 年度の 5 か年間の成果を別の報告書にまとめていますが、平成 30 年度の社会連携活動の一つとして、その一部を本書にも盛り込みました。四日市大学のさまざまな分野で、地域とのつながりが促進されたことを感じていただければ幸いです。

四日市大学副学長(社会連携・研究支援担当) 松井 真理子

### ◎本学の使命に基づく社会連携の推進について(学長声明の全文)

四日市大学は、地域の積年の念願として、四日市市と学校法人暁学園の公私協力により、昭和 63 年(1988 年)に開学した。設立に当たり作成した四日市大学設置認可申請書において、「地域社会と共生する地域貢献型大学」を基本理念に掲げており、地域と共にあることが本学の使命であることは設立時より明示されている。

以後 25 年間にわたり、「世界を見つめ地域を考える大学」をスローガンに掲げ、3 学部(経済学部・環境情報学部・総合政策学部)において、「地域を創る人材」の育成や地域とつながる研究や社会貢献活動を実践し、多くの成果を上げてきた。これらの取り組みをさらに全学的に推進するため、平成 25(2013)年 4 月には社会連携センターを設置し、「本学の学術研究及び人材を通して社会との連携活動を幅広く推進することにより、地域社会の発展及び本学の研究、教育の進展に資することを目的とする」ことを規程に定めた。これは本学の社会連携が、地域貢献はもとより、地域と連携することで本学の研究、教育を豊かにするという双方向性を志向するものであることを、全学的な方針として明確化したものである。

文部科学省では、平成 25 年度から、自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援する「地(知)の拠点整備事業」を開始した。これは、全学的に地域再生・活性化に取り組むと同時に、教育カリキュラムや教育組織の改革など大学のガバナンス改革につなげようとするものであり、各大学の強みを活かした大学の機能別分化を志向するものである。すなわち、個々の大学に今後の大学のあり方の選択を迫るものといえる。

今、本学は少子化に伴う厳しい経営環境に直面している。この状況を乗り越えるためには、本学が四日市市と連携し、地域と共に発展してきた強みを生かし、地域の知の拠点としての存在感を高め、地域から欠くことのできない有用な存在として認識されること以外にはありえない。それは、本学が一方的に地域に貢献するというのではなく、学生が地域の中でたくましく育てられ、本学の教育・研究が地域とつながることで豊かになることでもある。

文部科学省が行うこの事業は、本学にとって原点に立ち返るための起爆剤となりうるものである。本学の使命に立てば、今こそ全ての教職員が一丸となって、全学的な議論と研修を深め、自分のできることを実行することが求められる。また、全学的なガバナンス改革に組織を挙げて取り組む必要がある。

私自身が先頭に立ってこの取り組みを推進する決意であることを申し上げると同時に、すべての教職員にもこのことを深く自覚していただき、この困難な時代に何をなすのかを自らに問うていただき、主体的に取り組んでいただくことを期待する。

# 1. 社会連携センターの活動

## 1-1 社会連携センターの動き

### 活動の目的と経緯

平成 25 年度 4 月、学内外に対して社会連携活動を一元的に所管する部署として、「社会連携センター」が設置されました。平成 29 年 4 月からは、大学全体の事務組織の改編に伴い、新たに「社会連携・研究支援部」が設置され、「社会連携センター」はその中に位置づけられることになりました。具体的には、COC 事業等の地域連携諸活動、ボランティアセンター、コミュニティカレッジの 3 部門です。

社会連携センターは、設置規程において「本学の学術研究及び人材を通して社会との連携活動を幅広く推進することにより、地域社会の発展及び本学の研究、教育の進展に資することを目的」としており、本学の社会連携が、大学の資源を生かして地域に貢献するという側面だけでなく、地域と連携することによって本学の教育・研究を豊かにしていくという、双方向性を志向するものとしています。

### 活動内容と実績

社会連携センターに係るものとして、平成 30 年度は主として次の活動を行いました。

#### ① 地(知)の拠点整備事業のまとめ

平成 26 年度に採択された文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)」は、平成 30 年度までの 5 年事業なので、これまでの取組のまとめと今後の推進方向を意識しつつ、地域の行政、産業界、メディア、市民団体等の方々からなる「四日市大学地／知の拠点運営協議会」からさまざまなご意見をいただきながら発展を図りました(詳細は「地(知)の拠点整備事業全体総括報告書を参照)。

平成 30 年度は、初めての試みとして、「地域連携スポーツフェスタ」を実施しました。スポーツクラブが盛んな本学の特色を生かし、小中学生を中心とする地域の方々と本学学生とのスポーツ交流を行いました。学内的にもスポーツクラブ同士の連携を図る場ともなり、本学におけるスポーツの位置づけを改めて考える機会となりました。また、COC 事業のまとめとして「地域連携フォーラム」を開催し、行政や産業界と本学との連携のあり方について議論を深めました。

#### ② その他の取組

COC 事業以外にも、多様な地域連携活動、ボランティアセンター、コミュニティカレッジの取組を行いました。特に、ボランティアセンターの学内外の認知度が向上し、平成 30 年度は依頼数、参加学生数とも大きく増加しました(詳細は後述「ボランティアセンター」の項を参照)。本学のボランティアセンターの特徴である「原則全員ボランティア登録」により、学生の成長にも大きく寄与しています。

### 今後の計画

本学が四日市市を中心とする名実ともに「地／知の拠点」として地域から広く認知されるよう、COC 事業終了後も、多様な主体と連携する新たな大学づくり、地域づくりに取り組んでいきます。

**担当部門** : 社会連携センター

**連絡先** : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 1-2 研究機構

### 活動の目的と経緯

研究機構は本学教員の競争的外部研究資金の獲得を援助し、またその研究成果を社会に還元することを目的として平成 21 年に設立されました。また、教員、学生への研究倫理教育も推進しています。

### 活動内容と実績

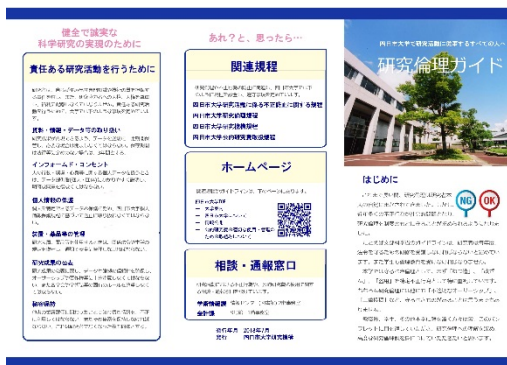
研究機構傘下の研究所からは平成 30 年度の文部科学省・科学研究費(科研費)が 3 件(関孝和数学研究所)採択されています。科研費採択件数の増加のために、事前査読制度など新規の試みも行いました。また、科研費他の外部資金の情報も引き続き発信しています。

教員の研究内容の集約、その社会還元のための資料として「研究実施状況報告書」及び「研究テーマ」をまとめ、ホームページで公開しています。

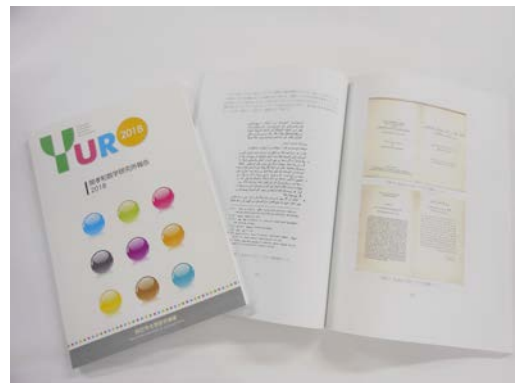
教員、学生へ倫理教育用パンフレットを配布し倫理教育を推進しています。

### 今後の計画

教員の研究活動の深化、その社会還元のために新たな試みを計画しています。



研究倫理ガイド



研究機構報告書 YURO2018

担当部門 : 研究機構 (担当教員名 小川東(研究機構長))

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

## 1-3 コミュニティカレッジ

### 活動の目的と経緯

四日市大学コミュニティカレッジは、本学の地域貢献の一環として、平成 9 年 4 月に開設されました。大学の設備や人的資源を活用した生涯学習のための講座を実施しています。大学だからこそ提供できる教育・研究資源を、地域の皆様に積極的に開放することを目的としています。

### 活動内容と実績

講座は、年間 5 クール(4-5 月期・6-7 月期・9-10 月期・11-12 月期・2-3 月期)、各期 6 回を基本に実施しています。講座は語学、パソコン、一般教養の 3 区分に分かれ、每期 50 講座程度を実施、中には開設時から 22 年にわたり続いている講座もあるなど、多くの方の支持を得ています。平日日中に加え土曜日や夜間にも講座を開催し、昼間に働いている方や学生のアクセサビリティも考慮しています。さらに講座によっては受講生が主体的に展示会を行うなど、講座の外でも恒例の活動が行われています。

開講時期	予定講座数/ 開講講座数	受講者数	講座平均 受講者数
4-5 月期	47 / 31	197	6.35
6-7 月期	48 / 34	211	6.21
9-10 月期	47 / 34	212	6.24
11-12 月期	47 / 33	195	5.91
2-3 月期	47 / 33	196	5.94
年度計	236 / 165	1,011	6.13

※受講者数は、実際に開講した講座の受講者のべ人数

地域	人数	割合
四日市市	175	71%
桑名市	21	9%
菰野町	11	4%
鈴鹿市	9	4%
その他	30 (うち県外 7)	12% (うち県外 3%)
計	246	100%

※平成 29 年度受講生実数により算出

受講者数はのべ 1,011 人(前年度 1,151 人)、実人数 246 人(前年度 299 人)でした。漸減しているとはいえ、極めて多くの地域の方がコミュニティカレッジをご利用いただいています。受講者の居住地は四日市市内の方が全体の約 7 割、三重県北勢地域にお住まいの方が 97%と、地元根付いた講座であることがわかります。地域的な受講者層は大学周辺地域の方がほとんどです。

また平成 30 年度は、新たに 42 人の方にご登録いただきました。しかし受講までには至らない例も多く、受講者のうち新規受講者は 1 割以下です。これは例年の継続的な傾向であり、新規受講者の獲得はコミュニティカレッジの課題であると言えます。

### 今後の計画

引き続き、活動目的に沿った地域のための講座を開講し、地域の皆様のニーズに応えることをめざします。平成 31 年度は、一部の講座を整理し、語学講座を中心に展開します。生涯教育としてのコミュニティカレッジの役割を引き続き検討し、大学が一般開放する他の講座等と合わせた広報展開も進めます。地域の生涯学習を通じて、本学の地域連携をさらに強化したいと考えています。

担当部門 : 社会連携センター

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp



## 1-4 ボランティアセンター

### 活動の目的と経緯

四日市大学ボランティアセンターは、平成 25 年 9 月に設置されました。学生ボランティアの依頼・参加申込の窓口として、学生と学外依頼者のマッチングを行っています。平成 27 年度からは、学生全員をボランティア登録し、原則として全員にボランティア依頼情報を送信する仕組みを導入しました。

ボランティアセンターの目的は、①学生の主体的なボランティア活動の振興、②ボランティア活動を通じた学生の人間的成長と本学の地域貢献力の向上、の 2 点です。この目的の実現に向けてボランティア依頼方法や最新の募集情報をホームページに公開し、学生・学外の方への周知を図っています。

### 活動内容と実績

(1) ボランティア活動の状況（ボランティアセンターを通じて申し込んだ活動のみ）

年度	項目	依頼件数	学生参加件数	参加率	学生参加者数	
					延べ	実数
平成 29 年度		63 件	36 件	57 %	223 人	77 人
平成 30 年度		59 件	39 件	66 %	321 人	110 人
	前年度比(%)	94 %	108 %	116 %	144 %	143 %

平成 30 年度は、それまで留学生支援課が取り組んできた留学生対象のボランティア活動を、ボランティアセンターでとりまとめて全学的に把握しました。このことにより、学生のボランティア活動の全体像がより明らかになりました。留学生が受ける依頼内容は、母国紹介や外国人としての視点を求められる国際交流活動など、留学生であるからこそできる活動が多いことが特徴です。彼らに対する地域のニーズは極めて高く、学生参加者数の前年度比は延べ数でも実数でも 1.5 倍近くとなり、飛躍的に増加しました。

依頼の大半はイベントや地域のお祭り等の単発の活動ですが、継続的な活動の依頼も増えてきています。たとえば子どもの学習・自立支援や食事・遊びの場の提供、犯罪に関わった(巻き込まれた)青少年の支援活動等は、継続的に同じ学生が相手と関わることによる信頼性の構築が重要です。そのため、学生の中には年間で 32 日間、同じボランティア活動に携わった学生もありました。四日市大学の学生が地域に貢献できることが依頼者の方からも高く評価されています。



6 月 23 日「ベトナムフェア」にて  
日本の歌を、ベトナム語で

### 今後の計画

平成 30 年度をもって終了した文部科学省補助金事業「COC 事業」の終了を機に、ボランティアセンターの所管は教学課に移管します。学生の動向をより良く把握する教学課で推進することにより、さらに充実した活動紹介・マッチングができることが期待されます。

担当部門 : 教学課 (平成 31 年度より)

連絡先 : 電話 059-365-6599 メール : vol-center@yokkaichi-u.ac.jp

## 1-5 地(知)の拠点整備事業(COC事業)(平成26~30年度)

### 活動の目的と経緯

平成26年度から5年間、四日市大学は文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」に取り組みました。「産業と環境の調和を目指す四日市における人材育成と大学改革」をテーマに、「教育改革」「地域連携改革」「ガバナンス改革」の3本柱に全学を挙げて取り組みました(下図参照)。



### 活動内容と実績

5年間に地域との連携は大きく前進しました。平成29年度には新カリキュラムがスタートし、「地域志向科目」数は、COCスタート時の平成26年度の18科目から、最終年度の平成30年度には36科目に倍増しました。平成27年度から三重大学を中心とする「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に参加するなど、他大学との教育連携も始まっています。

教員の地域志向も高まりました。平成26年度から3年間行った学内公募制の「1人1プロジェクト」によって、地域貢献活動に関わる教員数は全教員の87%となりました。また、「協創ラボ」「学生情報局」「わかもの学会」「地域連携フォーラム」「特定プロジェクト研究」「地域連携スポーツフェスタ」など、新しい地域連携の仕組みを次々に立ち上げ、地域連携の質・量ともに飛躍的に強化されました。

### 今後の計画

COC事業は補助事業の終了に伴い、いったんは閉じるものの、本学ならではの特性を生かした地域連携の取組を、より発信力を高めながら継続・発展させていきたいと思っております。

担当部門 : 社会連携センター

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 1-6 数字で見る COC 事業(平成 26 年度～30 年度)

### I 教育

	平成 26 年度(計画)	平成 30 年度(実績)	平成 30 年度(目標)
地域志向科目数	18 科目 / 455 科目	36 科目 / 349 科目	40 科目 / 350 科目
協創ラボに参加したゼミ数	6 ゼミ / 60 ゼミ	14 ゼミ・サークル	24 ゼミ / 48 ゼミ
協創ラボに参加した地域の主体 <sup>(1)</sup>	12 人	27 団体×2 人=54 人	48 人
人材像の目標に達した学生の割合 <sup>(2)</sup>	20%	71.7%	60%
わかもの学会発表学生数 <sup>(3)</sup>	36 人	306 人	145 人
卒業後の学生の就職先の評価(5段階評価の平均値) <sup>(4)</sup>	3	3.5 (H29 年度実績) (H30 は未実施)	4.5

### II 研究

	平成 26 年度(計画)	平成 30 年度(実績)	平成 30 年度(目標)
地域への研究成果の還元数 <sup>(5)</sup>	9	15	30
地域課題解決に向けた研究に従事する教職員数 <sup>(6)</sup>	9 人	39 人 (特定プロ A7、B21、C11)	24 人

### III 社会貢献

	平成 26 年度(計画)	平成 30 年度(実績)	平成 30 年度(目標)
地域貢献活動数	25 件	58 件 (特定プロ 3、ラボ 15、ボランティア派遣件数 40)	60 件
地域貢献活動に関わる教員数	8 人	28 人	36 人
地域活動に関わる学生数	延べ 40 人	581 人 (ボランティア 321、ラボ 260)	延べ 200 人
公開講座・公開授業の開催数 <sup>(7)</sup>	32 回	48 回 (3 科目+3 公開講座)	95 回

(1) 協創ラボに参加した地域団体数×2 人

(2) 算出根拠は「四日市大学地(知)の拠点整備事業平成 29 年度報告書」(資料 3-3)(2)に記載

(3) 当日発表者の選抜対象となった学生延数。当日発表者数は 13 人。

平成 31 年 1 月 1 日現在の学生数で算出(総合 3、4 年生 161 人、環境 3、4 年生 104 人、経済 4 年生 41 人)

(4) 特定プロジェクト研究(C)卒業生アンケートによる。

(5) 特定プロジェクト研究(A:5、B:5、C:5)の、著書、論文、学会で成果還元した発表件数

(6) 特定プロジェクト研究・一般プロジェクト活動に従事した教職員の実数

(7) 公開授業：「地域環境論(15 回)」「地域防災<集中>(15 回)」「地方議会論(15 回)」

公開講座：みえアカデミックセミナー、COC 公開講座(地域連携フォーラム講演)、四日市大学公開講座

**担当部門** : 社会連携センター

**連絡先** : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 2. 地域と連携する授業

### 2-1 四日市学(全学共通)

#### 活動の目的と経緯

四日市市を対象として、地域の社会、歴史、文化、自然、産業、環境などの現状を学び、この地域の将来の発展方向を考えることをねらいとしています。

#### 活動内容と実績

座学は、「四日市の防災」、「四日市の抱える今日の問題～人権問題～」、「四日市公害に向き合う」(ゲスト講師 四日市公害と環境未来館副館長)、「四日市の産業～コンビナートの明日を考える～」、「ふるさと・四日市の文学者たち」、「地域と宗教的文化・伝統」(ゲスト講師)、「四日市の芸術・文化・歴史」(ゲスト講師 四日市市博物館学芸員)、「四日市市の発信～シティプロモーション戦略～」(ゲスト講師 四日市市観光・シティプロモーション課職員)。そのほかにフィールドワークとして、「四日市市博物館で学ぶ」、「四日市で学ぶ ～市内の名所・名産を体験～」。

#### 今後の計画

次年度以降も、新しいコンテンツを検討しながら、引き続き実施していく予定です。

担当部門：学部共通 担当教員名：鬼頭浩文ほか

### 2-2 市民教育(全学共通)

#### 活動の目的と経緯

若い世代が主権者としての基礎的な力を養成できるよう、入門的な主権者教育を行います。三重県や四日市市において、市民としての権利と責任を自覚し、行動することができる人材の養成を目指します。

#### 活動内容と実績

以下のような体系のもと、三重県や四日市市の具体的な素材を使い、地域についての理解を深めるとともに、普遍的な主権者教育となるよう配慮しました。

- 1 主権者としての基礎知識：日本国憲法と人権、国や自治体の仕組み、税、社会保障、労働
- 2 制度への参加：裁判員制度、検察審査会、住民参加の諸制度
- 3 身近な社会への参加：選挙、消費者としての参加、市民活動、SNS、話し合いの技法
- 4 世界と自分とのつながり：SDGs、平和、環境(消費者としての参加と重複あり)

#### 今後の計画

より充実した主権者教育を目指し、学生の参加型授業となるよう工夫を重ねていきます。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：松井真理子

## 2-3 人権論(全学共通)

### 活動の目的と経緯

人権の基本を理論的に学ぶとともに、差別を受けやすい立場の人たちの課題について、地域の当事者を招いた対話などを行い、誰もが安心して暮らせる社会の重要性を理解する講義を行います。

### 活動内容と実績

以下のような体系のもと、普遍的な人権について学ぶとともに、特にマイノリティの人権に関しては、主として四日市市内の当事者をお招きし、地域における人権課題やそれへの対応について理解が深まるよう配慮しました。

- 1 人権の基本：人権の歴史、体系(自由権、社会権、参政権、新しい人権など)
- 2 マイノリティの人権：障害がある人、外国人、子ども、部落問題など
- 3 暮らしの中の人権：患者の人権、地域社会と人権、個人情報保護など

### 今後の計画

より充実した人権教育を目指し、学生の参加型授業となるよう工夫を重ねていきます。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：松井真理子

## 2-4 地域社会と環境(全学共通)

### 活動の目的と経緯

本科目は「座学+α」を通じ、四日市臨海部の変遷について学ぶことを目的とします。平成29年度からは全学共通科目(地域科目)に拡大リニューアルし、学部を越えて誰もが履修可能となりました。

### 活動内容と実績

平成29年度は「(公財)公害地域再生センター」(大阪市西淀川区)研究員をゲスト講師に迎え、未知の公害が起きた近未来という設定で「ロールプレイ」に挑戦しました。アクティブラーニング推進の観点から、平成30年度も独自に「ロールプレイ」を取り入れ、様々な立場の人の視点に立つ、「気づき」を促す授業として受講生からも好評を得ました。



ゲスト講師招聘の様子(H29年度)

### 今後の計画

平成31年度より授業担当者が変更となりますが、引き続き四日市公害のことも取り上げていきます。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：神長 唯



## 2-5 地域防災(全学共通)

### 活動の目的と経緯

講師に、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘し、実践的な講義を市民にも開放し、NPO 法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。

### 活動内容と実績

座学では、学内学生を対象として4月より9週にわたり、金曜3時間目に90分の講義を実施しました。ここでは、防災士養成研修で指定されたテキスト31講目について、重要箇所を重点的に説明し、防災士試験に合格するための学習をします。6月中旬の週末3日間には、防災士養成研修として市民にも開放し、県内の高校生、県内企業で働く方、一般市民にも受講いただき、県内の地域防災の最前線で活躍している消防職員、自衛隊員、市役所の危機管理室職員、社会福祉協議会職員、地域の自主防災組織の方などを講師に招聘して、実践的な講座を展開しています。

### 今後の計画

次年度以降も、引き続き実施していく予定です。

担当部門：学部共通      担当教員名：鬼頭浩文ほか

## 2-6 ボランティア活動 a、b(全学共通)

### 活動の目的と経緯

地域での諸活動にボランティアとして参加することは、机上の学習では得られない、現実の課題を体感する機会になるため、参加した学生に対して、一定の基準により単位認定を行うことにしています。

### 活動内容と実績

地域から寄せられるボランティア情報を、ボランティアセンターから学生にメールで届けるなどして、多くの学生がボランティアへ参加できるよう配慮しました。単位取得の要件は以下の通りです。

- ① 対象となる活動：大学の審査により認められたボランティア活動
- ② 必要な活動時間：全実労働時間60時間以上(複数の年度にまたがってもかまわない)
- ③ 活動期間：授業、大学行事等に支障がないと判断される時期であること
- ④ 単位認定申請：単位認定を希望する場合は、必要な書類を提出し、担当教員の審査を受ける。

### 今後の計画

ボランティアセンターと連携して、一層充実した取組となるよう工夫を重ねていきます。

担当部門：総合政策学部      担当教員名：松井真理子

## 2-7 キャリア基礎Ⅲ(全学共通)

### 活動の目的と経緯

キャリア基礎科目は、進路選択に必要な考え方や技法を学ぶことを目的として、全学共通の基礎科目として、キャリア基礎Ⅰ・キャリア基礎Ⅱとともに開講しています。

### 活動内容と実績

キャリア基礎Ⅲでは、ひととおりの就職活動を模擬的に体験することを主な内容とし、12クラスで行っています。以下のキーになる講演を招聘し、合同で実施しています。〔 〕は招聘者

- ・「日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか」〔三十三総研〕
- ・「新聞を読む」〔日本経済新聞社〕
- ・「ビジネスマナー①・②」〔幸プランニング〕
- ・「模擬合同説明会」〔地元企業 3社〕

### 今後の計画

担当者会議での議論を踏まえて、毎年、改善内容を検討しています。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩(キャリア基礎科目担当者会議 座長)

## 2-8 インターンシップ(全学共通)

### 活動の目的と経緯

大学の長期休暇などに合計 10 日間をフルタイムで就労体験します。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行います。

### 活動内容と実績

4月：説明会(CSC主催)・・・スケジュール詳細説明／申込用紙配布⇒申込用紙を提出⇒書類選考  
5月下旬：ガイダンス・・・受入企業一覧配付/希望研修先用紙配付/事前研修についての連絡など  
6月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定  
7月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等⇒7月下旬：直前ガイダンス  
8~9月上旬：インターンシップ研修⇒11月：事後研修・・・レポート提出⇒単位認定  
以上のスケジュールで3名の学生が全メニューを終え、2単位を認定しました。

### 今後の計画

次年度以降も、引き続き実施していく予定です。

担当部門：学部共通 担当教員名：鬼頭浩文ほか

## 2-9 まちづくり研究／コース別研修(全学共通)

### 活動の目的と経緯

社会調査の企画からアウトプットまでを受講生が実際に体験する実習科目です。前学期の「まちづくり研究」では調査の設計と実践を、後学期の「コース別研修」では結果分析とレポート作成を行います。

### 活動内容と実績

平成30年度は「環境問題と地域社会：公害資料館に携わる四日市市民の思い」を調査テーマとしました。「四日市公害と環境未来館」のボランティア解説員に対し、聞き取り調査を試みました。また、第12回社会調査インターカレッジ発表会(写真。平成30年10月20日、愛知県立大学長久手キャンパス)に初めて傍聴参加し、東海圏の他大学の社会調査報告から大いに刺激を受けました。



### 今後の計画

平成31年度は授業担当者が変更となりますが、地域の課題解決に資する調査を企画実施予定です。

**担当部門：**総合政策学部      **担当教員名：**神長 唯

## 2-10 祭りとまちづくり(総合)

### 活動の目的と経緯

担い手が高齢化した「大入道山車」の維持のために、若者は何ができるか、また、これまで維持されてきた「祭り」の意義を、実際に祭りに参加することを通じて学修することを目的としています。

### 活動内容と実績

平成21年度、人口減少・高齢化に悩む地元大入道山車保存会からの依頼に応え、祭りを体験することにより、祭りの意義と保存・継承に若者が果たす役割を考えるこの講義は、年々その内容が充実してきています。現在、祭りの意義や大四日市祭の歴史を学ぶ講義5回、「大入道山車」「岩戸山」「富田鯨船中島組」保存会会長による座学5回を踏まえ、大入道山車と鯨船の組み立て見学、大四日市祭への参加、鳥出神社祭礼への参加など、実習の機会も充実しています。地元の方々とのふれあいの機会も多く、受講生にとって、地域を維持しようとする熱い人々の実態を学ぶ有意義な機会といえます。

### 今後の計画

祭りをできるだけ多くの地元の人々の参加で支える仕組みを検討していく予定です。

**担当部門：**総合政策学部      **担当教員名：**岩崎恭典



## 2-11 鉄道とまちづくり(総合)

### 活動の目的と経緯

車社会で育った学生が、車を使えなくなる人が多くなる時代に向けて、地方鉄道を存続させる意義について考え、具体的に公共交通・地方鉄道の維持・活性化方策を実践していくことが本講座の目的です。

### 活動内容と実績

平成 20 年度に、三岐鉄道と日本民営鉄道協会が総合政策学部へ寄付講座を開設していただいたことを契機として、翌年度、どうしたら地方鉄道を維持できるかを検討しました。その結果、三岐鉄道北勢線に「サンタ電車」を走らせようと企画し、平成 22 年度から毎年続けています。座学と現地視察で地方鉄道の現状を学び、沿線自治体のキャラクターの動員やコミュニティバスの割引券のチラシへの印刷など、様々な工夫を重ね、今では、1,500 人以上の子どもたちとご家族が、日本に残る数少ないナローゲージ鉄道を楽しむ冬の恒例イベントとなっています。

### 今後の計画

これからも、サンタ電車は学生に受け継がれて走り続けさせたいと考えています。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岩崎恭典

## 2-12 コミュニティ論(総合)

### 活動の目的と経緯

一般に町内会・自治会といわれる地縁団体について学ぶ科目です。日本全国津々浦々にありますが、その活動は多岐にわたるため、具体的な活動を体験することが必須であり、現場重視の科目です。

### 活動内容と実績

この講義では、地縁団体の歴史を江戸時代から現代まで、そして現在、地域運営組織が必要となっているという時代背景までを座学で学んだのち、活動の現場へと出かけます。平成 24～25 年度の志摩市渡鹿野島、26～27 年度の鳥羽市と大学からは遠方でしたが、28 年度からは、地元八郷西町会と連携して、会長にお話をお伺いするとともに、空家対策としての学生によるシェアハウスの可能性を検討しました。29 年度からは、地元の秋祭りにチヂミの屋台と大学紹介のブースを出店し、地元の方々、特に、お年寄りとお触れ合うことを通じて、地縁団体の存在意義について、身をもって学んだところです。

### 今後の計画

大学も地元自治会の会員ですから、いい意味での教材として地元を活用させていただく予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岩崎恭典

## 2-13 地方議会論(総合)

### 活動の目的と経緯

三重県は県議会や四日市市議会など、議会改革では日本のトップランナーです。現場で活躍する議員等から直接学ぶ機会も設け、地方議会の重要性を学ぶため、地域への公開授業として開講します。

### 活動内容と実績

以下のような体系のもと、三重県議会や四日市市議会を素材にして、具体的な事例をもとに授業を行いました。議会改革により設けられた仕組みへの参加は、学生が地方議会を理解する上で効果的です。

- 1 地方議会の仕組み：地方自治における議会の役割、二代表制、委員会、会期、会派など
- 2 地方議会と市民生活：暮らしに直結する議員の質問、請願、傍聴など
- 3 地方議会改革：三重県や四日市市の議会改革の具体的な内容について
- 4 地方議会への参加：四日市市議会の議案への意見提出、四日市市議会報告会への参加

### 今後の計画

より充実した内容になるよう、毎年の経験をもとに、修正を重ねていきます。

**担当部門**：総合政策学部 **担当教員名**：松井真理子

## 2-14 NPO 論(総合)

### 活動の目的と経緯

社会を構成している3つのセクター(政府、企業、市民)のうち、市民セクターの今日的な役割と意義について、四日市市を中心とする具体的な事例に基づいて、深く理解する講義を行います。

### 活動内容と実績

以下のような体系のもと、主として四日市市の市民活動を素材にして、具体的な事例をもとに授業を行いました。実際の活動に参加する機会は、学生がNPOを理解する上で効果的です。

- 1 NPOの基本：NPOとは何か、多様な市民活動組織、財源、中間支援など
- 2 地域の課題とNPO活動：高齢社会、子どもの貧困、障害がある人など
- 3 NPOの新しい方向性：新しい公共、社会的企業、市民ファンド、地域コミュニティとの連携
- 4 学生も参加できる市民活動：各種市民活動の紹介、ささえあいのまち創造基金の配分への参加など

### 今後の計画

より充実した内容になるよう、毎年の経験をもとに、修正を重ねていきます。

**担当部門**：総合政策学部 **担当教員名**：松井真理子

## 2-15 地域開発論(総合・経済)

### 活動の目的と経緯

地域開発論は、総合政策学部・経済学部での共通の専門科目として開講しています。

### 活動内容と実績

地域開発論は、地域政策のうち空間構造に関わる内容(国土計画・土地利用計画・都市計画等)を、理論と実践の双方から学ぶことをねらいとして開講しています。実践については、国内外の事例のほか、三重県・四日市を中心とした事例を収集し講義に活用しています。

三重県関係：土地利用基本計画・国土利用計画・都市計画図・土地区画整理事業・公共事業の評価

四日市関係：都市計画図・都市計画制度・都市計画マスタープラン・地域・地区別構想

### 今後の計画

地域事例は、常に最新のものを収集し講義に活用している予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩

## 2-16 起業論／アントレプレナーシップ論(総合・経済)

### 活動の目的と経緯

起業論／アントレプレナーシップは、総合政策学部・経済学部での共通の専門科目として開講しています。協創ラボとして株式会社三十三総研(旧三重銀総研)と連携しています。

### 活動内容と実績

株式会社三十三総研が実施するビジネスプランコンテストを活用し、より実践的な起業家精神の育成を図っています。具体的には株式会社三十三総研に①ビジネスプランコンテスト応募の事例紹介②財務指標とビジネスプラン作成にあたる留意事項について、講師として教授いただいています。一方で教員側は、学生に馴染みのある企業や学生が取り組みやすいソーシャルビジネスなどを事例として、起業家精神として共通する考え方を考えると同時に、事業計画のフレームと立案に必要な分析手法を教授しています。

その結果、コンテストへの応募には至りませんでした。学生でもほぼ同様の事業計画を立案することができました。

### 今後の計画

本年度のやり方を改良しながら、引き続きビジネスプランコンテストの学生部門への応募を目指します。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩

## 2-17 四日市公害論(環境)

### 活動の目的と経緯

平成 24 年度の開講以来、環境情報学部環境専攻の必修科目でしたが、平成 30 年度より学部全体の必修科目へと拡大しました。地元四日市で 4 年間学ぶ以上、四日市公害は押さえておくべきという認識です。

### 活動内容と実績

四日市公害の歴史的過程や当時の様相についての知識を深め、今後の環境問題を考える視点を身につけることがねらいです。故・野田之一さん、故・澤井余志郎さん、伊藤三男さん(写真。2 平成 29、30 年度)といった半世紀以上にわたり四日市公害と真剣に向き合ってきた「生き証人」をゲスト講師として毎年お招きし、彼らの「生の声」を聴くという貴重な機会を設けてきました。



### 今後の計画

平成 31 年度より授業担当者が変更となりますが、引き続き四日市公害について多角的に学びます。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：神長 唯

## 2-18 地域環境論(環境)

### 活動の目的と経緯

環境関連の諸分野で活躍している方を講師として招聘し、環境問題の現実と経験をお話いただき、教科書や通常講義では知ることが難しい事柄を学生に学ばせることを目的としています。

### 活動内容と実績

平成 30 年度の 15 回の講義は次の通りでした。①四日市公害の歴史を学び、次世代へつなぐ、②「四日市公害と環境未来館」の使命と役割、③四日市市の環境行政、④海や川の環境を守る下水道・浄化槽について、⑤メガソーラー問題とこれからの里山、⑥ICETT の環境活動と SDGs、⑦持続可能な開発のための教育(ESD)、⑧地球温暖化とゲリラ豪雨、⑨鈴鹿山脈の獣たち。特別天然記念物ニホンカモシカはいま、⑩北勢地域の獣害問題と対策、⑪若者の就農と農業塾、⑫三重県の温泉 - 地域資源の活用と保全、⑬三重県の林業の特徴と課題、⑭ - 伊勢湾の漁業資源 - あさりを中心に、⑮伊勢湾の漂流漂着ゴミ問題

### 今後の計画

内容の濃い講義を行って参ります。公開授業ですので、学外の皆様も是非ご参加ください。

担当部門：環境情報学部 担当教員名：千葉 賢

## 2-19 環境研修 b(環境)

### 活動の目的と経緯

中京圏の経済は発展しましたが、伊勢湾の環境は悪化し、諸規制にも関わらず豊穡な海は戻って来ていません。本講義では海洋調査法の基礎と、実習を通じて伊勢湾の環境問題の現状を学びます。

### 活動内容と実績

三重大学の勢水丸を本学の単独航海としてお借りして、伊勢湾内外に出で行う授業です。平成 21 年に開始してから 10 年目を迎えました。このような大規模な実習は他に無いため、学生たちには人気の授業です。事前授業で海洋科学の基礎を学び、実習では勢水丸の機器を使って水質や底質、生物調査などを行います。船内の掃除、配膳、食器洗いなども学生の仕事で、皆で協力して作業を進めます。事後授業に参加してレポートを提出すると単位を取得できます。本地域の持続可能性を考える上で、伊勢湾の役割や環境問題を知ることは大切で、本講義はその役割を果たしています。

### 今後の計画

実習を継続するとともに、取得データを分析し、伊勢湾の環境改善に役立てます。

担当部門：環境情報学部 教員名：千葉 賢

## 2-20 環境土壌学(環境)

### 活動の目的と経緯

それぞれの地域の固有財産であるだけでなく人類の共有財産である土壌について、地域の環境問題を学ぶ環境情報学部の学生に考えてもらうために実施しています。

### 活動内容と実績

土壌は世界中のいろいろな場所にある人類共通の財産です。土壌はそれぞれの土地や風土に密着しており、その土地の農業や食文化にも結び付いた極めて地域性の高い財産です。この環境土壌学では、地域の環境問題について学ぶ環境情報学部の環境専攻の学生に対して、15 回の講義のうち 1 回をあて、三重県や北勢地域にある土壌の特徴や性質、分布状況などについて、紹介する内容を盛り込んでいます。

### 今後の計画

現状では、授業時間の関係から三重県にある土壌の分布状況やその特徴の紹介のみにとどまっています。次年度以降は説明方法などを工夫し、各地域についてさらに掘り下げた内容にする予定です。

担当部門：環境情報学部 担当教員名：廣住豊一

## 2-21 音楽とまちづくり(総合・環境)

### 活動の目的と経緯

この授業では、「四日市 JAZZ フェスティバル」を通じて、街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞き、実際に 2 日間のイベントにスタッフとして参加しました。

### 活動内容と実績

9～10 月：四日市 JAZZ フェスティバルの狙いと当日に向けた打合せなどを 4 回の授業で行いました。

10 月 20・21 日：スタッフとしてイベントをサポートしました。

(四日市 JAZZ フェスティバルへのボランティアスタッフとしての参加を授業 4 回分としてカウント)

イベント終了後は、実行委員会の方を講師に招聘し、発信とメディア(実行委員会 広報部門担当者)、会場設営(実行委員会 会場部門担当者)、経費と協賛(実行委員会 会計・協賛部門担当者)について学習しました。さらに、学内教員により、音楽とまちづくりの関係について 4 コマの講義をしました。

### 今後の計画

次年度以降も、引き続き実施していく予定です。

担当部門：総合政策学部・環境情報学部 担当教員名：鬼頭浩文・前川督雄・木村真知子・関根辰夫

## 2-22 経済経営特殊講義 a、b(経済)

### 活動の目的と経緯

本講義は、おもてなしを担う企業の成功事例を理解することを目的としています。おもてなし経営が成功している企業の総合力を見ることがこの講義のねらいです。

### 活動内容と実績

平成 30 年度前学期 a では、「社員・顧客・地域」を大切にする「三重のおもてなし経営企業選」受賞企業(鹿の湯ホテル、おぼろタオル、マस्याグループ、ダイレクトカーズ)の経営者をお招きし、経営理念や事業目標がどのように企業内に反映されているか、そのポイントはどこにあるかなどをうかがいました。

後学期 b では、新たな試みに取り組みました。三重県内で導入されているおもてなしロボット CORON を使用した実際の応用システムを通じて、「おもてなし」サービスの効率化について学びました。

### 今後の計画

全学共通教育科目のスキル科目のなかの「おもてなし特別講義」として開講していきます。

担当部門：経済学部 担当教員名：岩崎祐子



## 2-23 地域産業論(総合)／地域企業セミナー(経済)

### 活動の目的と経緯

地域産業論(地域企業セミナー)は、総合政策学部・経済学部の共通の専門科目として地域の企業を理解する目的で開講している。じばさん三重と協創ラボとして連携しています。

### 活動内容と実績

地元企業の魅力を知ってほしいと考える、じばさん三重(公益財団法人 三重北勢地域地場産業振興センター)と連携し、講義に加えて夏期休業期間に1日のバスツアーを実施することとなりました。

平成30年度は、富士電機三重工場(日本有数の自動販売機製造現場)、ミヤオカンパニーリミテッド(陶磁器を炊飯器などへ応用)、イナトウ(伝統産業の日永うちわ製作体験)を訪れると同時に、じばさん三重に立ち寄って北勢地域の地場製品の解説を受けました。じばさん三重の支援を受けることによって充実した内容となりました。

### 今後の計画

学生の反応、じばさん三重の評価も高いことから、来年度も継続して実施する予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩

## 2-24 地域連携特別講義 a(全学共通)

### 活動の目的と経緯

三重大学が中心となって取り組んでいるCOC+事業の一環として、県内の各高等教育機関が共同で開設する食と観光について学ぶPBL型の科目として、平成29年度初めて開講されました。

### 活動内容と実績

COC+事業を機に、県内の高等教育機関が初めて合同で開設した歴史的な科目です。2年目となる平成30年度は、本学のほか、三重大・皇学館大・鈴鹿大・三重短大の各大学から受講があり、本学からは7名の学生が受講しました。座学を中心とした2回の事前学習のほか、伊勢市・鳥羽市での2泊3日の合宿をしてのフィールドワークがあり、学生たちは大学間の垣根を超えて活発に意見を交換しあい、刺激に満ちた学習活動を行いました。



鳥羽市の海女小屋での体験の様子

### 今後の計画

平成31年度以降も、フィールドを変えながら引き続き開設していく予定です。

担当部門：教学課 担当教員名：小林慶太郎(総合政策学部教授)

## 2-25 行政法(総合)

### 活動の目的と経緯

さまざまな形態で行われている行政活動を法的視点から意味づけ、行政活動に法がいかなる役割を果たしているかを理解することを目的に、平成 30 年度より、本学 OB の 3 名の四日市市役所職員の方に講義をしていただいています。

### 活動内容と実績

将来、公務員になる学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生でも、仕事上あるいは私生活の上で、避けて通ることのできない行政法について、現職の四日市市役所職員の方に、行政実務を踏まえた講義をしていただくことで、学生たちにとっては、公務員など将来の進路も意識することができる科目になったと考えます。実際に、この授業を受講した学生の中にも、公務員採用試験の受験を考えるようになった学生がいました。

### 今後の計画

平成 31 年度も引き続き、本学 OB の四日市市役所職員の方々に担当いただく予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：小林慶太郎

## 2-26 食とまちづくり(総合)

### 活動の目的と経緯

食文化を通じたまちづくりに取り組んでいる方の話を伺うことなどを通じて、まちづくりの担い手として育っていくことを狙いとして、平成 23 年から開講しています。

### 活動内容と実績

平成 30 年度は、それぞれの地域で食を通じたまちおこし活動に取り組んでいる「亀山みそ焼きうどん本舗」、「名張牛汁協会」、「Do it! 松阪鶏焼き肉隊」、「津ぎょうざ小学校」の各団体の方に、講師として登壇いただきました。このうち、津ぎょうざ小学校の原田さんは本学卒業生であり、受講生にとって一つのロールモデルとなったのではないのでしょうか。また、平成 30 年度は、一般社団法人わくわくスイッチへの三重県の委託事業を活用し、同法人の協力のもと、食を使った事業に取り組んでいる県内の企業 3 社への取材型インターンシップにも参加し、地域の産業としての食についても学びました。

### 今後の計画

平成 31 年度も学外から講師を招くとともに、食でのまちおこし活動への参加も実施する予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：小林慶太郎



### 3. 高大連携

#### 3-1 環境情報学部の高大連携授業

##### 活動の目的と経緯

高大連携授業は、大学教員の専門分野の話を通じて、高校生の社会への関心を高めたり、大学で学ぶ専門分野への興味を促したりすることを目的としています。環境情報学部では、自然環境、メディア、情報分野の高大連携授業を実施しています。

##### 活動内容と実績

入試広報室、教学部からの要請に応じて高大連携授業を実施しています。平成 30 年度は以下に示す 13 回以上の授業を行いました。

期日	高校名、授業タイトル、担当教員
4/21	三重県高等学校放送連盟総会での講習会、「アングルとポジション」木村、「声の録音とエフェクター」関根、「撮影照明」黒田
5/9	三重県立白子高校出張講義「生物・バイオ・環境ってなんだろう」大八木
5/14	愛知県立海翔高校出張指導「土壌研究指導」廣住、5/14 以外にも複数回実施
6/11	愛知県立海翔高校出張演習「プランクトン採集と観察」牧田
7/10	暁高校(三年制)高大連携・大学見学会、「コンピュータを使った音楽制作演習」関根、「受験英語ではない大学英語」ブレイ
10/3	暁高校出張講義「アンケート調査法」田中
10/18	岐阜県立武儀高校出張講義「今起きている奥山、里山の環境問題」千葉
10/22	暁高校出張講義「農学と食糧・環境問題」廣住
10/25	愛知県立海翔高校出張講義「ラジオテレメトリー法を使った野生哺乳類の生態研究とその保護管理」橋本
11/13	いなべ総合学園出張講義「海のマイクロプラスチック汚染」千葉
11/21	いなべ総合学園高校 高大連携・大学見学会(1年生)、「水の実験」大八木、「音響」関根、「映像」木村、「VR」前川
2/1	名張高校放送部、「映像制作指導協力」木村、前川
2/19	暁高校(三年制)高大連携・大学見学会、「身近な水を科学する」大八木、「現代中国語で漢詩を読む」吉山、「Web プログラミング」片山、「映像制作」木村

##### 今後の計画

現代社会が必要としている自然環境、メディア、情報分野の諸問題に積極的に取り組み、それを高大連携に活かして参ります。

**担当部門** : 環境情報学部

**連絡先** : 環境情報学部教授 千葉賢 電話 059-340-1620 メール : chiba@yokkaichi-u.ac.jp

## 3-2 総合政策学部の高大連携授業～北星高校の1年生ゼミへの参加

### 活動の目的と経緯

四日市大学総合政策学部の1年生ゼミ「入門演習」には、高大連携授業として北星高校の生徒さんたちが参加しています。北星高校の授業は生徒の選択制なので、授業に参加する生徒数は年度によって少しずつ変わりますが、四日市大学から比較的近いこともあり、毎年必ず数名の生徒さんが参加してくれています。

総合政策学部と北星高校との連携は、北星高校が四日市北高校であった時代から始まっています。当初は総合政策学部のゼミによる中心市街地の活性化活動に参加する形が中心でした。平成17年度からは1年生のゼミに参加することになり、週に一度、大学生と一緒に年間を通して学び、高校の単位修得とする現在の形式になりました。

北星高校は生徒の発達支援の観点から、大学との連携授業に熱心に取り組んでおられます。生徒さんたちは担当の先生と大学に通い、大学生と楽しく交流しながら成長しています。

### 活動内容と実績

平成30年度は前期5名、後期3名の生徒さんが参加しました。総合政策学部の学生たちは高校生をゼミの一員として自然に受け入れています。1年生のゼミでは、前期は大学生としての基本的な学習方法やコミュニケーションのトレーニング、後期はゼミ対抗ディベートを通じた総合的な学習を行います。特に後期のディベート大会では北星高校の生徒さんたちの活躍がめざましく、毎年重要な役割を果たしてくれています。

このような成果を高校側も高く評価され、高校側からの申し出により、持続的な連携関係を明確にすべく、平成30年3月1日付で、四日市大学と北星高校は高大連携提携書を交わしました。総合政策学部だけではなく全学的に連携することになりますが、当面は総合政策学部の入門演習への参加を継続することになります。

### 今後の計画

今後も北星高校との連携は続いていきます。上述した総合政策学部の1年生ゼミ「入門演習」では、高大連携授業として引き続き北星高校生の参加を積極的に歓迎していきます。また、北星高校の学校評価委員長もこれまで総合政策学部教員が務めてきています。生徒の大学での授業参加に留まらず、多面的な高大連携が期待されます。

**担当部門** : 総合政策学部

**連絡先** : 総合政策学部准教授 三田泰雅 電話 : 059-365-1405 メール : mita@yokkaichi-u.ac.jp

### 3-3 学部共同の高大連携授業

#### 活動の目的と経緯

四日市大学では大学と高校の相互理解を深めるために、学内の様々なレベルで、高校と連携(あるいは協力)した活動(事業)を実施しています。この中で、3 学部が合同して高大連携を掲げ、高校との高大連携事業として取り組んでいるものをご紹介します。

#### 活動内容と実績

##### ○暁高等学校(3 年生)

◇1 年生の総合学習の時間を利用し、高校生が進学意識の高揚と進路選択に資することを目的とし、出前授業を実施しました(10 月 3 日)。高校生 118 名が受講しました。

- ・社会科学分野「ベトナムと日本、高度経済成長の時代」 経済学部 杉谷克芳准教授
- ・社会科学分野「外国人から届いた 1 枚の手紙」 総合政策学部 富田与教授
- ・人文科学分野「心理学調査の実例(服の色について)」 環境情報学部 田中伊知郎教授
- ・情報科学分野「ラジオテレメトリー法を使った野生動物の研究」 環境情報学部 橋本幸彦准教授

◇2 年生を対象に、ゼミ生との交流及びゼミ研究活動を通し大学への理解を深めることを目的とし、大学見学会を実施しました(①7 月 3 日、②2 月 19 日)。高校生①95 名、②100 名が参加しました。

- ①7 月 3 日:(タイトルのみ)「話し合いの技法」、「SDGs を学んでみよう～世界の目標と自分の課題～」、「コーヒーから海外とのつながりを考えよう」、「人気のある音楽や映画、インターネットであなたの英語力を UP させる」、「スタジオでレコーディングを体験しよう」、「自分のルーティンをつくろう」
- ②2 月 19 日:(タイトルのみ)「東京オリンピック・パラリンピックの経済効果を考える」、「コミュニケーションとは何か?」、「アイドルの炎上した歌の歌詞を分析してみる」、「電卓アプリを作ってみよう」、「身近な水を科学する」、「120 年前のマジシャンに挑戦」、「現代中国語で唐詩『登鶴鶴楼』を読もう」

##### ○三重県立いなべ総合学園高等学校

◇1 年生の総合学習の時間を利用し、文理選択に向けた学問分野を知ってもらうことを目的に出前授業を実施しました(11 月 14 日)。高校生文系クラス 90 名、理系クラス 40 名が受講しました。

- ・文系「過去の災害の教訓を今後活かすには」 …………… 総合政策学部 鬼頭浩文教授
- ・理系「海のマイクロプラスチック汚染」 …………… 環境情報学部 千葉賢教授

◇1 年生を対象に、研究室訪問や施設見学など大学見学会を実施しました(11 月 21 日)。高校生約 130 名が参加しました。

#### 今後の計画

今後の取組としては、高大連携に関する高校側から出されるニーズと、本学が三重県北勢地域を中心とする「地/知の拠点」としてふさわしい取組に対する意見聴取・協議を進め、相互の信頼関係を築きながら進める必要があります。COC 事業は終了しますが、今後も入試広報室が担当部署として継続していきます。

**担当部門** : 入試広報室

**連絡先** : 総務・企画部次長 佐藤信行 電話 059-365-6711 メール : sato@yokkaichi-u.ac.jp

## 3-4 東日本大震災支援活動と学校間連携

### 活動の目的と経緯

四日市東日本大震災支援の会(以下、支援の会)は、被災地の復興・復旧のために、四日市大学の学生・教職員が中心となって平成 23 年 4 月に設立し、同 5 月から一般市民とともに災害支援活動を行いました。平成 24 年 3 月からは、四日市看護医療大学、桑名北高校、四日市四郷高校、暁中学高等学校などと連携し、各学校のバックアップのもと、支援活動を行ってきました。当初の目的は、大規模災害を受けた被災地の復旧・復興支援と心のケアにありましたが、被災地での活動経験や見聞きしたことを地域防災に活かす活動も行っています。予想される南海トラフ巨大地震においては、三重県において復旧・復興がスムーズに進むためには、多くの若者が被災地でボランティア活動をした経験が生きてきます。学校間で連携することも、災害に強いまちづくりにつながります。さらには、遠く被災地の若者と交流することも大切なことです。また、支援の会では、平成 27 年度より、三重県教委と連携した「学校防災ボランティア事業」を実施し、三重県内の高校・中学に呼びかけを行い、被災地での支援活動を通して三重の地域防災に貢献する人材育成に協力しています。

### 活動内容と実績

平成 28 年 5 月からは、熊本地震の被災地である熊本県西原村での災害ボランティア活動を始め、平成 28 年度 5 回、平成 29 年度 6 回、平成 30 年度 6 回の活動をしました。活動には、中央共同募金会からの助成金を継続的に受け、卒業生や一般からの寄付なども受けました。

また、東北においても、宮城県東松島市を中心に、復興を応援する活動を行いました。平成 30 年度は、4 月に春まつり、5 月に災害公営住宅でのサロン活動、8 月には県教委の主催する学校防災ボランティア事業、同じ 8 月に夏まつり、12 月にクリスマスイルミネーション点灯イベントなど、東北でボランティア活動をしました。

また、四日市大学で防災士養成講座を開講し、支援の会のメンバーが世話係となり、四日市市危機管理室、四日市市社会福祉協議会、四日市市消防団、自衛隊など、防災に関わっている行政・市民の方にも講師になっていただき、三重県内の高校生・大学生・一般社会人も参加し、避難所運営訓練、災害ボランティアの実践訓練など、地域防災について実践的に学び、多くの学生・高校生・市民が防災士の資格を取得しました。

### 今後の計画

今後も、できるだけ多くの学校間で連携し、被災地支援と三重の地域防災への貢献をしていきます。

**担当部門** : 四日市東日本大震災支援の会

**連絡先** : 総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話 : 059-340-1902 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

## 4. 教職員による地域活動

### 4-1 留学生による地域社会との交流

#### 活動の目的と経緯

留学生支援センター(留学生支援委員会、留学生支援課)は、留学生が主体的に地域社会と交流するための機会として、学内外での行事の実施や参加を企画してきました。特に、「四日市大学留学生弁論大会」と「留学生新春パーティー」は地域の皆さんと交流する機会が持てる催しです。過去には、「留学生弁論大会」で優秀な成績を収めた者の中から、全国大会での受賞者が出たり、弁論原稿が日本語の教科書に採用されたりしています。近年、地域社会においても異文化理解や国際交流での留学生への期待がより一層大きくなっており、留学生支援センターでは、そうした地域社会からの要請にも、可能な範囲で対応しています。

#### 活動内容と実績

第15回目となる「四日市大学留学生日本語弁論大会」を四日市市、四日市北ロータリークラブ、国際ソロプチミスト三重 - 北から後援を頂き、予選を12月6日に実施し、7名の出場者のうち5名が本選に出場しました。本選は、三重大学、鈴鹿大学から各1名の出場者を招き、1月12日に開催しました。この大会は司会やスタッフも留学生が務め、進行のすべてを担当。大会出場者、運営担当者は何度も練習を重ねて、この日に臨みました。会場となった311教室には、四日市市など周辺自治体関係者や地域の方々、日本語授業担当の先生、コミュニティカレッジ関係者、教職員など学内外の多数の方々にご参加頂きました。大会終了後は留学生新春パーティー(交流会)を行い、盛大に開催することができました。

また、桑名市教育委員会国際教室や木曾岬小学校での文化紹介、暁高校文化祭でのブース出展、いなべ総合学園高等学校での「食と文化」の授業講師、ベトナムフェア、大規模津波防災総合訓練参加など、地域社会での国際交流と異文化理解活動に取り組みました。

こうした取組などが高く評価され、一般財団法人日本語教育振興協会から、全国の日本語学校教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先として、「日本留学 AWARDS」私立大学文科系部門に6年連続(平成25～30年)してノミネートされ、上位入賞を果たしました。

#### 今後の計画

平成31年度は、これまでの活動を継続しながら地域社会との連携をより強くし、また学内における日本人学生との交流活動についても積極的に実施する計画です。



留学生日本語弁論大会



留学 AWARDS 表彰式

**担当部門** : 留学生支援課

**連絡先** : 電話 059-365-6793 メール : [issc@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:issc@yokkaichi-u.ac.jp)



## 4-2 高校生フェンシング選手のメンタルサポート活動

### 活動の目的と経緯

三重県体育協会スポーツ医・科学委員会は、委員会内に5つの班(スポーツ医学、体力科学、スポーツ栄養学、スポーツ心理学、コーチング・マネジメント)を組織して、県の指定選手の調査や強化育成を実施しています。委員を務める若山裕晃総合政策部教授は、三重大学の鶴原清志教授との協力のもとで、自身の専門分野を生かしスポーツ心理学班としての活動を展開しています。平成29年度からは、フェンシング選手を対象として、メンタルトレーニングを指導しています。

フェンシングには、フルーレ、エペ、サーブルの3種類の形式があり、それぞれ得点を獲得できる身体や防具の範囲が異なりますが、定められた範囲を剣先で突くことができれば得点となる競技です。良い成績を収めるためには、技術はもちろん、競技中に冷静さを保つ精神面の能力が必要と考えられます。特に、全国大会のような大きな試合では、自分の気持ちをコントロールするための精神力、つまりメンタルの力が重要になってくるのです。精神的重圧がかかっても本来の実力を発揮できるように、スポーツ心理学班は選手一人ひとりの特性に応じたサポートを心掛けています。

### 活動内容と実績

平成29年度は指定選手に対して、まず選手たちがどの程度メンタル強化の必要性を感じているかを認識するために、簡単な質問紙調査を行いました。また、「目標設定」の指導も実施しました。指定選手の合同練習会では、他の班の調査や講習会のスケジュールもあり、スポーツ心理学班として十分な指導ができませんので、指定選手が所属する三重海星高等学校のフェンシング部に直接足を運んで、講習会や指導を展開しています。

平成30年度は、メンタルトレーニング講習会と並行して試合の観察も実施しました。

### 今後の計画

平成31年度は、フェンシング選手へのサポートが終了する年度となります。試合を観察する機会を増やしつつ、引き続きサポート活動を継続していきます。

担当部門 : 総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部教授 若山裕晃 電話 059-340-1904 メール : young-mt@yokkaichi-u.ac.jp

## 4-3 一般社団法人四日市とんてき協会

### 活動の目的と経緯

四日市に来たことがない人たちにとっては、四日市と言うと、依然として公害の街という印象が強いようです。しかし、実際の四日市は、そのイメージに反して、とても暮らしやすい街です。

このギャップの解消、すなわち四日市に対するイメージの改善こそが、実は、四日市で地域おこしを進めていく上での、最大の課題なのではないでしょうか。いくら暮らしやすい魅力あふれる街であっても、それが知られていなければ、そこに引っ越して来る人も遊びに来る人もいないでしょうし、負のイメージでしか見てもらえないということが続けば、そこに住んでいる人たちまでもが、自らの街に対する愛着や自信・誇りを、失ってしまいかねません。

そこで辿り着いたツールが、ご当地グルメ「とんてき」です。昔から愛され食べ続けられてきた「とんてき」に四日市の地名を冠して発信していくことで、四日市に対するイメージを改善し、四日市に暮らす人々の街への愛着や自信・誇りを取り戻していこう、「四日市とんてき」をツールとして活用することで地域おこしを進めていこうと考え、平成 20 年に四日市とんてき協会が設立されました。小林慶太郎総合政策部教授が設立当初から代表を務めています。

### 活動内容と実績

活動の目標は、「とんてき」の販売促進ではありません。「四日市とんてき」というツールを使って、四日市という街の魅力を発信することです。平成 20 年春に試作版を出して以来、ほぼ毎年「四日市とんてきマップ」を作成しているほか、公認ソースやコンビニ弁当など「四日市とんてき」を通じて四日市を売り込める様々な商品の開発を監修したり、ご当地グルメでまちおこしの祭典「B-1 グランプリ」への出展(平成 22 年度から)をはじめとした各地のイベントへの出展を通じて四日市の PR に努めたりしています。B-1 グランプリの開催がなかった平成 30 年度も富士市や郡上市・勝浦市など県外でのイベントに出展したり、東海・北陸地区の B-1 グランプリを四日市で開催すべく誘致活動を行ったりしました。また、対外発信だけではなく四日市の魅力を発掘することで、市民のまちへの愛着や自信・誇りを高めていこうとする「四日市まちづくりカフェ」という取組も平成 26 年度から始め、平成 30 年度も 6 回開催しました。



四日市まちづくりカフェの様子

### 今後の計画

引き続き「B-1 グランプリ」への出展や「四日市まちづくりカフェ」の開催をしていくほか、他の団体との協働なども進めながら、積極的に四日市のまちの魅力の発信に努めていくとともに、四日市市で開催される見込みの東海・北陸 B-1 グランプリの実現にも協力して参ります。

**担当部門** : 一般社団法人四日市とんてき協会(代表理事 : 小林慶太郎 総合政策学部教授)

**連絡先** : 四日市とんてき協会事務局 メール : tonteki@tonteki.com

## 5. 学生による地域活動

### 5-1 四日市大学ボランティア部

#### 活動の目的と経緯

平成 23 年 1 月、総合政策学部の学生が中心となり、ボランティア部が発足しました。自主的に地域の様々なニーズに応じたいという学生たちです。その後、学部を超え、自分たちの力を地域のために役立てたいと考える学生が集まって組織しています。平成 26 年度は、以前から連携があった四日市港管理組合と協創ラボの締結を行い、協働の取組を行っています。

#### 活動内容と実績

平成 29 年度からは、一部の学生が四日市市社会福祉協議会ボランティアセンターとも連携して、大学祭でのボランティア活動の啓発も行いました。

ただ、四日市大学ボランティアセンターが大学の組織として活発に活動していることや、ボランティア部としての組織上の問題などから、活動が停滞しました。協創ラボを締結している四日市港管理組合との協働事業にも、十分期待に応えることができませんでした。

#### 今後の計画

今までのような、一般的な外部からの依頼への対応というスタイルは限界が来ています。

しかし、地域のために活動したいという学生の声はあり、ボランティア部の形式にこだわらない新しい展開を計画していきます。

**担当者** : 総合政策学部教授 松井真理子  
**連絡先** : 電話 : 059-363-3539 メール : mariko@yokkaichi-u.ac.jp



## 5-2 地パト(四日市大学地域パトロール部)

### 活動の目的と経緯

各学部割り当てられた未来経営戦略推進経費を活用して、総合政策学部では、平成22年度より、学生による大学活性化企画を公募し、審査の上でその企画の実施経費を補助するという事業を行いました。この初年度の企画として、学生から自発的に応募があったのが、四日市大学地域パトロール(通称：地パト)です。学部からの補助は、蛍光色のジャンパー(ユニフォーム)や、ごみ収集袋などの費用に充てられました。当初は2名の学生だけでのスタートでしたが、防犯や清掃美化、そして地域住民との交流などを目的に活動し、現在では10数名の学生が活動しています。

現在では、公益社団法人「小さな親切」運動本部より「小さな親切」実行章を授与されたり、県警生活安全部長感謝状を授与されたりと、社会からの評価も高まってきています。平成30年度も三重県防犯協会連合会に表彰いただきました。

### 活動内容と実績

毎週火曜日、大学の授業が終わった後に、揃いの蛍光色のジャンパー(ユニフォーム)を着て、地域の方への声掛けをしながら巡回しています。また、活動内容を地域の方々にお知らせするために、広報紙「地パトニュース」も毎月発行し配布しています。

活動の様子が新聞にも取り上げられたり、三重県知事が実行委員会会長を務める「美し国おこし・三重」のパートナーグループとして登録されたりしたこともあり、当初は不審の目を向けてこられた地域の方々にも理解が広がりつつあります。学生たちが企画して地域の方々との流しそうめんによる交流会を行うなど、地域の方々との交流も深まってきています。

平成29年からは、新たに大矢知地区でもパトロールを始めました。

### 今後の計画

地域の安全は本来、地域の住民が主体となって担うものであり、地パトの活動は、あくまでもそうした地域の意識を涵養するための触媒と言えます。そうした地パトの活動の意義は、これまで高く評価されてきたところですが、残念ながらその一方で学内では、活動を引き継いでいく学生の不足に苦しんでいるという実情もあります。

平成31年春に多くの部員が卒業していき、残された部員が4年生2名のみとなってしまったことから、今後は、活動を継続していくことができるのかどうかについても、黄信号が点っている状況です。クラブ活動は、あくまでも学生の自主的な取組であり、教員が主導して行うものではないことから、新年度の部員の勧誘が芳しい成果を出せなかった場合には、次年度以降の活動の休止もやむをえないと考えています。

**担当者** : 総合政策学部教授 小林慶太郎(地域パトロール部 顧問)

**連絡先** : 電話 : 059-365-6599(教学課) メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

## 5-3 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」

### 活動の目的と経緯

選挙というと、毎回、若者の投票率が低いことが問題となります。こうした状況を打破しようと、四日市市選挙管理委員会と連携して、小林慶太郎総合政策部教授が呼びかけたことを受けて、学生たちが自分たちの世代(若者世代)の投票率の向上を目指して始めた活動が「ツナガリ」です。平成22年12月16日に、経済学部3名、環境情報学部1名、総合政策学部4名の計8名でスタートしました。グループ名の「ツナガリ」には、若者と選挙のツナガリ、選挙で選ばれる代表とのツナガリ、次の世代・未来へのツナガリなどの思いが込められています。

### 活動内容と実績

平成30年度は、大学祭で模擬投票や「ツナガリ」のPR活動を行ったり、市内のショッピングモール等で啓発活動を行ったりしたほか、平成31年4月の統一地方選挙に向けた投票呼び掛けのためのキャッチコピーなどについて四日市市選挙管理委員会の委員との意見交換会なども行いました。選挙管理委員会委員からは若者らしい突き抜けたアイデアに期待する旨の発言もいただきました。

また、四日市市選挙管理委員会と協力して、若者の利用の多いSNSで選挙や投票に関する情報を発信しようと、フェイスブックページの運用も行っています。

こうした学生の活動は、選挙事務関係者や議会関係者、マスコミなど、多くの方からも注目・評価いただいております。特に熱心に活動してきた学生たちは、四日市市選挙管理委員会から「四日市市学生選挙啓発活動表彰」を受賞しました。



大学祭での模擬投票



ショッピングモールでの啓発



選管委員との意見交換



表彰を受けた学生

### 今後の計画

選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたこともあり、平成31年度に予定されている四日市市議会議員選挙をはじめとする統一地方選挙や参議院通常選挙に向けて、若者の投票率を上げるための活動を、引き続き、強化していく予定です。

**担当者** : 総合政策学部教授 小林慶太郎(四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」顧問)

**連絡先** : 電話 : 059-365-6599(教学課) メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

電話 : 059-354-8269(四日市市選挙管理委員会事務局)

## 6. 生涯学習・公開講座

### 6-1 みえアカデミックセミナー

#### 活動の目的と経緯

「みえアカデミックセミナー」は、県下生涯学習の進展をめざした県民の方のための公開講座で、県内の高等教育機関 15 校すべてが参加していることが大きな特徴です。平成 8 年度に「三重 6 大学公開講座」として本学を含む 6 大学で開始し、平成 15 年からは各機関が講座を担当する形式となって現在に続いています。主催は三重県生涯学習センターですが、各高等教育機関が講師を担当する「公開セミナー」はそれぞれの機関の教育の特長が生かされ、全国的にもユニークなものです。本学はセミナー開始時から現在まで、毎年欠かさずに様々な講義を行ってきました。

セミナーは「オープニング講座」「公開セミナー」「移動講座」の 3 つで構成され、同時開催の「アカデミック展」では各参加をパネル等で紹介しています。同時に本学のパンフレットや紀要等を設置し、多くの方にお持ち帰りいただいています。

#### 活動内容と実績

平成 30 年度は「公開セミナー」と「移動講座」の両方を実施しました。

「公開セミナー」(7 月 27 日)では、山本伸環境情報学部教授が「島は語る ーカリブ海から 沖縄からー」のタイトルで島文化を語り、64 人の方にお聞きいただきました。「島」文化としてのカリブと沖縄の共通点や価値観を中心に、多民族多文化国家のカリブの文化や情熱的なカーニバルの様子、沖縄の子どもたちが熱狂する「琉神マブヤー」というヒーローなどについて、写真入りの投影資料で説明しました。「島」に共通する「見えないものを信じる文化」や、アイデンティティの摩擦・融合は人間としての豊かさに通じ、「人としてどう生きるか」という哲学ではないかという発言で講座は締めくくられました。実施後のアンケートでは「カリブ海の歴史についてよく理解できた」「南の島の人々の他を受け入れる寛容な文化に感心した」などの意見が寄せられ、好評でした。



講演中の山本伸環境情報学部教授

「移動講座」(2 月 8 日)は御浜町で行われ、鬼頭浩文総合政策学部教授が講師を務めました。災害時には津波被害が心配される同町の課題を念頭に、「あれから 7 年と 11 か月、私たちは忘れない～大切な教訓を次世代に伝える～」と題して、東北大震災の経験を踏まえた準備と心構えについて具体的に語りました。

#### 今後の計画

平成 31 年度の講座は次のとおりです。

- 日 程：平成 31 年 7 月 19 日
- テーマ：あれから 8 年と 4 か月、私たちは忘れない～大切な教訓を次世代に伝える～
- 講 師：鬼頭 浩文 (総合政策学部教授)

担当部門 : 社会連携センター(社会連携課)

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 6-2 四日市大学公開講座

### 活動の目的と経緯

リカレント教育は、近年、ますます重要度と注目度を増しています。大学における研究成果を広く公開し、地域の皆様の生涯学習を推進することを目的として、本学では開学2年目の平成元年から公開講座を実施してきました。その時代のニーズに合わせ、様々な方法で開講してきましたが、講師は原則として本学専任教員が務めます。一般の方を対象に開講するものですので平易な説明を大前提に、本学の教育研究内容を広く提供することで幅広い知識や視野を身につけていただくことをめざします。

さらに、平成26年度に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」を機に、同年度より5年間はCOC事業の一環としての公開講座も併せて開講してきました。これは学外専門家を講師として招くことが特徴です。地域への知識供与を行うと共に、本学が地域を志向した教育・研究を進め、地域コミュニティに貢献するための機能を強化することを目的としています。

### 活動内容と実績

平成30年度は下の2つの公開講座を実施しました。

【地域連携フォーラム (COC 公開講座)】平成31年3月9日、於：四日市大学 9号館

●講師：椎川 忍 (地域活性化センター理事長) ●受講者数：82人

●タイトル：地域活性化に若者と大学が果たす役割

補助金事業としてのCOC事業最終年度であることから、事業総括報告である「地域連携フォーラム」の記念講演としてCOC公開講座を実施しました。全国各地で地域おこしの支援と人材育成を実践する講師の自らの経験に基づく講演内容は好評でした。明治以降の日本の近代化により、得たもの、失ったものを挙げ、地域の豊かさが我々の幸福度に直結するとの説明がありました。本学のCOC事業に関心の高い受講者が多かったこともあり、実施後のアンケートでは「地域課題解決に貢献する学生の育成を」「地域の若者の話をもっと聞くとよい」など、本学が継続的に取り組むべきご意見も多くありました。

【四日市大学公開講座】平成30年8月10日、於：そらんぼ四日市(四日市公害と環境未来館)

●タイトル：平成30年度環境白書及び環境基本計画を読む会 ●受講者数：114人

環境省が実施する「環境白書及び環境基本計画を読む会」として中部地方環境事務所との連携で実施しました。環境省大臣官房環境計画課、同総合政策課、四日市市環境部から講師を招き、全国、地域の環境計画についての説明の後、四日市大学環境情報学部の取組について学部長である千葉賢教授が説明しました。

### 今後の計画

平成31年度も公開講座を実施する予定です。地域の方の生涯教育をお手伝いする手段のひとつとして、多くの皆様にご利用いただきたいと思いますと考えております。

担当部門：社会連携センター

連絡先：電話 059-340-1927 メール：renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 6-3 四日市市民大学 一般クラス

### 活動の目的と経緯

四日市市は、毎年市民向けに「四日市市民大学」という講座を開講しています。例年、3～4 コース程度が、市民企画として審査会を経て開講され、2 コースを四日市大学と三重大学が企画・運営にあたって開講しています。平成 30 年度は、「時間・空間で観る四日市の魅力～文化・科学・歴史・安全・安心～」というタイトルのもと、四日市の魅力の一部を深く掘り下げて再認識していただき、新しい発見が未来の元気な四日市に繋がることを願って企画しました。

### 活動内容と実績

- ①8/31 四日市が世界に誇るプラネタリウム ～アビーロードと四日市～  
講師：四日市大学名誉教授 豊島政実  
アンカー：四日市大学教授 鬼頭浩文
- ②9/7 四日市 JAZZ フェスティバル ～四日市に根付く音楽文化～  
講師；四日市 JAZZ フェス実行委員 柳川平和  
アンカー；四日市大学教授 小林慶太郎
- ③9/14 四日市の芸能史 ～伝統芸能に四日市っ子の自由な気風を見る～  
講師：芸能史研究家 前田憲司  
アンカー：四日市大学学長・教授 岩崎恭典
- ④9/21 久留倍官衙遺跡とその展開 ～その魅力と可能性～  
講師：四日市市教育委員会学芸員 堀越光信  
アンカー：四日市大学教授 鬼頭浩文
- ⑤10/12 四日市市の中の国際化 ～四日市で学ぶ留学生を通して世界を観る～  
ゲスト：四日市大学で学ぶ留学生たち  
アンカー：四日市大学教授 鬼頭浩文
- ⑥10/19 四日市の安全・安心 ～東北であったことから学ぶ～  
講師：四日市大学卒業生 北村潤(宮城県東松島市出身)  
アンカー：四日市大学教授 鬼頭浩文

### 今後の計画

四日市市民大学は、今後も毎年開催されると考えられます。基本的に市民企画を中心に提供する仕組みになっていますので、四日市大学のもつ資産を活用し、魅力のある講座を実施していく予定です。

**担当部門** : 社会連携センター(平成 31 年度より)  
**連絡先** : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp



## 6-4 履修証明プログラム

### 活動の目的と経緯

四日市大学では、広く社会人の皆様に大学教育を開放し、教養・スキルの向上、また生きがいの創出などに貢献しています。平成 21 年度から導入した「履修証明プログラム」は、大学の正規授業や公開講座などを組み合わせて、地域の方々が体系的な知識・技術等の習得をできるように準備された教育プログラムです。各プログラムの受講総時間数は 120 時間程度になります。どのプログラムも週に 1～2 日の通学で、1～2 年で修得が可能です。本プログラムを修了した方には大学から、学校教育法の規定に基づくプログラムであること及びその名称等を示した履修証明書(単位や学位を証明するものではありません)が交付されます。

### 活動内容と実績

平成 30 年度は以下の 5 コースを開設しました。

四日市学プログラム
地域リーダー養成プログラム
社会調査技能習得プログラム
情報処理入門プログラム
環境保全入門プログラム

平成 30 年度に修了された方はいらっしゃいませんでしたが、平成 29 年度には、1 名の方が、「地域リーダー養成プログラム」を修了され、履修証明書を交付しました。受講者の方は、地方自治論、NPO 論、コミュニティ論、人権論、地方議会論といった講義で、地方自治の現状と課題を学ぶ一方、地域防災やコミュニティ論といった現地実習を含む講義では、若い学生に交じって活動され、「防災士」の資格も取得されました。

### 今後の計画

各プログラムは、それぞれの目的に沿った授業科目が精選されています。短期集中型のプログラムではないため、受講には時間と手間がかかりますが、満足度の高い受講が可能と考えています。より詳しくは、大学のホームページ(TOP > 生涯学習 > 履修証明プログラム)をご覧ください。

**担当部門** : 教学課

**連絡先** : 電話 059-365-6599 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

## 6-5 社会人を受け入れる教育プログラム

### 活動の目的と経緯

四日市大学は正課教育に広く社会人を受け入れる方針で、**社会人入学制度、科目等履修生制度、聴講生制度**を定めて運用してきました。これまでに多くの社会人の皆様がこれらの制度を利用されています。

### 活動内容と実績

#### 1. 社会人入学(学士号取得)

「きちんと学び直して自分を高めたい」「仕事や子育てがひと段落し、新しいことにチャレンジしたい」等のニーズに応えるため、広く社会人に対して高等教育機関で学ぶ場の提供と授業の開放などを行い、学習機会の拡充のために設けられた入試制度が「社会人入学」です。

○社会人入学のポイント

- ・「入学金」と「4年間の学費」の半額免除。 ・履修や演習登録時にカリキュラムサポートを実施。
- ・「総合政策学部」では5年から8年を在学期間とする「長期履修制度」を実施。

○出願資格等

1. 最終学歴が高等学校卒業以上の者又は文部科学大臣の定める大学入学資格を有する方。
2. 満23歳以上の方。 3. 社会人経験を有する方。

○選抜方法

- ・事前課題文(500字～600字)を提出し、試験日にその事前課題文をもとに面接、判定します。

○詳しくは四日市大学入試広報室にお問い合わせください(入試広報室 TEL 059-365-6711)。

#### 2. 科目等履修生

生涯学習に対するニーズに応えるため、科目等履修生の受け入れを行っています。学外の社会人等に特定科目の受講を許可するものです。一つ又は複数の科目を選択でき単位修得が可能です。

○出願資格等

- ・大学入学資格を有する者又はこれと同等以上の学力を有すると認められる者とします。
- ・選考は面接によります。前学期、後学期の2回募集を実施します。
- ・試験に合格し単位修得の認定を受けた場合は、必要に応じて単位修得証明書を交付します。

#### 3. 聴講生

生涯学習に対するニーズに応えるため、聴講生の受け入れを行っています。学外の社会人などに特定科目の聴講を許可するものです。一つ又は複数の科目が選択できます。但し、聴講生は科目等履修生とは異なり、単位修得はできません。

○出願資格等

- ・大学入学資格を有する者又はこれと同等以上の学力を有すると認められる者とします。
- ・選考は面接によります。前学期、後学期の2回募集を実施します。

### 今後の計画

今後も、社会人の学び直しなど、ニーズに則して制度を生かしていただければと思います。

**担当部門** : 教学課

**連絡先** : 電話 059-365-6599 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

## 7. 調査研究

### 7-1 四日市大学研究機構 関孝和数学研究所

#### 活動の目的と経緯

本研究所は数学、数学史、数学教育及びその周辺に関する研究、調査を推進し、大学、社会の発展に寄与することを目的として、平成 21 年 4 月に発足しました。所長は上野健爾(京都大学名誉教授)、副所長は森本光生、(上智大学名誉教授、元国際基督教大学学務副学長)、松本堯生(広島大学名誉教授)、小川東(本学環境情報学部教授)の 3 名が務めています。現在、所長、副所長を含み 20 名の研究員、客員研究員が在籍しています。

#### 活動内容と実績

(1)研究員による平成 30 年度の文部科学省・科学研究費(科研費)採択は、森本光生「東アジア数学史より見た建部賢弘の数学の研究」、森本徹「幾何と微分方程式に対する Klein-Cartan プログラム」、斎藤憲「ギリシャ数学文献の総合的分析」の 3 件です(代表者として本学で機関経理をしているもののみ)。

(2)平成 30 年 1 月 12 日に東京大学で開催された『2019 年新春特別講義・高校生と社会人のための現代数学・物理学入門講座「方程式を解く」』を日本数学協会、東京大学素粒子物理国際研究センターと共に共催しました。上野 健爾(四日市大学 関孝和数学研究所)「高次連立方程式を解くー関孝和の終結式の理論ー」、黒川 信重(東京工業大学 名誉教授)「無限次方程式の解と応用ーオイラーが考えたことー」、岡本 和夫(東京大学 名誉教授)「微分方程式を解く」、清水 勇二(国際基督教大学 教養学部)「ワイエルシュトラスのペー関数と微分方程式」、小林 富雄(東京大学 名誉教授)「物理の方程式を解く」の 5 講演が行われました。

(3)『YURO2018 関孝和数学研究所』に、研究員が多く参加している数学史京都セミナーの記録をまとめました。個々の研究員の活動実績は多岐に渡るので省略します。

#### 今後の計画

本年度同様に活動します。中学校、高等学校への出張講義などにも対応しています。

担当部門 : 研究機構

連絡先 : 電話 059-365-6712 メール : skim@yokkaichi-u.ac.jp



### 活動の目的と経緯

人口減少社会に突入した日本は、これまで人口増加を前提に作ってきた様々な「公」の仕組みの大きな見直しを迫られています。

この見直しのためには、地域における市民参加を通じて、これまで「公」を担ってきた行政の役割を根本的に再検討するとともに、今後の人口減少社会において「公」を再構成する道筋を明らかにしつつ、「新しい時代の公」を担う首長、公務員、議会議員、各種地域団体などの役割の明示を行うことにより、なによりも、「新しい時代の公」を「担い得る」人材・組織が「育つ」ことが必要です。

公共政策研究所は、各自治体が多様な地域性を有することを前提に、各自治体が多様な地域課題の解決を通じて「新しい時代の公」を形成していく取組に対して、学内の人的資源を動員して支援を行い、もって「公」の一般理論化を目的として平成 21 年 10 月に設立されました。

### 活動内容と実績

平成 30 年度は、いずれも前年度より引き続き、三重県市町総合事務組合より受託した「ワンステップ研修(前期)講師派遣業務」と、碧南市(地域協働課)より受託した「碧南市市民協働推進事業」の合計 2 件を実施しました。

また、本研究所の研究員は、三重県や四日市市や鈴鹿市、亀山市、伊賀市、尾鷲市などの三重県内の自治体のみならず、知多市、岩倉市、刈谷市、長久手市、袋井市、東近江市など、多くの県外の自治体でも、要請を受けて講演や現地指導などを行いました。これまで本研究所の研究員が各地の自治体で実施してきた事業が、相応の評価を受けているものと思われます。



本研究所の研究員による現地指導等の様子

### 今後の計画

引き続き着実に事業を受託していくとともに、講演や現地指導なども可能な限りお引き受けするなど、各自治体の政策形成に資する取組を継続していく予定です。

**担当部門** : 研究機構

**連絡先** : 電話 059-340-1927 メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

## 7-3 四日市大学研究機構 生物学研究所

### 活動の目的と経緯

本研究所は様々な生物についての調査研究を通じて、環境保全、自然保護、バイオ資源の有効利用などに取り組むことを目的として平成 26 年に設立されました。四日市大学周辺には竹林を主体とした里山、多くのため池、河川、内湾、干潟など、豊かな自然があり、多くの動植物が生息しています。これら近隣地域の調査、研究に加えて、国内各地の調査、研究も進め、その成果を情報として発信したり教育現場に還元することによって地域への貢献を目指します。

### 活動内容と実績

#### ◆研究

『四日市大学論集』第 31 巻第 2 号に北海道のモケウニ沼，東京都青梅市の多摩川における珪藻調査の結果を発表しました。

- ・小川東・田中正明「モケウニ沼(北海道)の珪藻類」
- ・小川東・田中正明「多摩川上流から得られた *Cymbella janishcii* (A. W. F. Schmidt) De Toni 及び *Gomphoneis minuta* (stone) Kociolek & Stoermer の走査電子顕微鏡観察」

また，研究所内でセミナーを開催し，ミジンコの分類や海外の論文，研究書について議論しました。

#### ◆体験会他

- ・平成 30 年 6 月 9 日(土)

「電子顕微鏡体験会～ミクロの世界をのぞいてみよう～」対象は同窓会の親子 9 名

- ・平成 31 年 3 月 2 日(土)

「電子顕微鏡体験会」対象は山手中学校理科部の生徒 8 名

- ・平成 31 年 3 月 19 日(土)

「珪藻の世界 電子顕微鏡による観察」対象は暁学園高等学校の生徒 8 名



同窓会主催の電子顕微鏡体験会

#### ◆その他

- ・平成 30 年 7 月 23 日(月) 愛知教育大学附属岡崎中学校「総合学習」指導(1 名)
- ・平成 31 年 1 月 15 日(火) 三重県立桑名西高等学校「探究講座」指導(3 名)
- ・「プランクトン通信」13, 14 号発行
- ・プランクトンの同定，培養などに関する問い合わせ対応
- ・研究所ホームページ内「プランクトン図鑑」更新

### 今後の計画

調査研究に関して外部資金の獲得を進めます。また各種体験会を継続し、また各種問い合わせにも対応します。

担当部門 : 研究機構

連絡先 : 電話 059-365-6712 メール : bio@yokkaichi-u.ac.jp

## 7-4 四日市大学研究機構 環境技術研究所

### 活動の目的と経緯

これまで我々人類の生活は公害や生活廃水などによる水質汚濁や自動車の排気ガスなどによる大気汚染をもたらしました。近年では地球温暖化問題、海洋汚染、森林破壊、PM(大気粒子状物質)の越境汚染などといったような地球規模での環境問題が引き起こされています。また、身近な問題としては廃棄物不法投棄による地下水汚染、干潟の消失による海岸生物の減少、伊勢湾などの水質汚濁の進行といった状況が起こっています。四日市大学研究機構・環境技術研究所では、このような地域からの依頼による大気や水質などの環境調査研究ならびにそれらに関する環境シミュレーション分析及び廃棄物の処理やリサイクル技術に取り組み、もって広く地域社会や地球環境保全への貢献を目指しています。

### 活動内容と実績

#### 環境汚染の原因調査と対策技術

四日市は四大公害の都市として全国に知られていますが、石油コンビナートによる汚染は解消されつつあります。これに対して市周辺域における工場、農場、廃棄物処分場や廃棄物の不法投棄などによる水質汚濁が依然として発生しています。これらの汚染について汚染実態の把握、原因究明と対策の方向を明らかにする必要があります。市内の各自治会、環境保全団体などからの要望によりこうした環境調査活動を実施し、結果を住民に周知しています。具体的な事例としては、海蔵川、十四川、鎌谷川などの河川調査、四日市市富田地区、大矢知地区の浸出水・地下水調査などを実施しました。

#### 環境技術開発での共同研究の推進(平成 30 年度)

- ・三重中央開発(株)・・・焼却灰、焼成灰の鉛等含有量低減化技術開発に関する共同研究
  - ・活水プラント(株)・・・バイオマスの高機能メタン発酵装置による資源化技術の開発
  - ・(財)三重県環境保全事業団・・・四日市市内河川の水質汚濁に関する共同研究、さらに滋賀県甲良町のケントム・リサイクル炭化プラントでリンの回収実験とその分析
- 以上を受注し、調査・分析を行いました。

#### 地域連携による環境調査活動の推進(平成 30 年度)

市内の鎌谷川(地元西山町自治会からの要望)の中流域の窒素汚染、海蔵川(県地区市民センターより依頼)上流部畜産排水汚濁、十四川(富田地区自治会などとの共同調査)中流部の有機汚濁などの河川の汚濁調査を実施し、可能な事例は環境系学会報告や英文雑誌投稿などをいたしました。



焼却灰を急冷する作業(ケントム社)

### 今後の計画

上記の調査研究をより発展・深化させて、地域に貢献したいと考えています。

担当部門 : 研究機構、環境技術研究所長 武本行正

連絡先 : 電話 059-340-1621 メール : takemoto@yokkaichi-u.ac.jp



## 7-5 四日市大学研究機構 地域農業研究所

### 活動の目的と経緯

農業はわたしたちの生活を支える基盤産業です。農業分野には、耕作放棄地の急増、里山の荒廃、獣害などの解決すべき課題も多く残されている一方で、AI や IoT などの技術の導入による新しい成長産業としての可能性も期待されています。

四日市大学研究機構地域農業研究所は、四日市大学地(知)の拠点整備事業の支援を受けて実施された 1 人 1 プロジェクトや特定プロジェクト研究などで得られた研究成果のうち、農業分野に関する内容をさらに発展させ、地域農業の振興をはかるための調査研究を行うことを目的に設立されました。

### 活動内容と実績

地域農業研究所では、地域の農業が抱える課題について調査し、地域と農業を振興するための方策について考えます。

平成 30 年度は、四日市地域の竹林間伐材から製造された粉末資材を使用した土づくり効果を検証するための水田での土壌調査及び実験用ビニルハウスでの栽培実験、地域資源である温泉を活用したトマトの栽培実験と果実成分分析などを実施しました。温泉水を活用したトマト栽培の研究では、温泉を所有する市及び三重県の研究所など関係機関との連携強化をめざし、研究結果の報告と情報共有を行う会合を持ちました。また、農業高校において高校生の意識調査を行い、将来の農業を担う人材育成に関する調査を始めました。

外部資金の獲得を目指し、公益財団法人が募集した研究助成金に応募しましたが、残念ながら採択には至りませんでした。

### 今後の計画

平成 31 年度は、今年度実施した竹林間伐材を活用した土づくりの研究、温泉を活用したブランド農作物創出に関する研究、農業高校における高校生の意識調査などを継続するとともに、担い手不足に対応するための AI や IoT を用いた省力化・自動化栽培システムの研究に着手します。また、外部資金の獲得を目指し、引き続き民間財団が募集する研究助成金に積極的に応募するほか、四日市大学が実施を予定している特定プロジェクト研究への応募を計画しています。



温泉水を活用したトマトの栽培実験



トマト果実の成分分析



栽培実験の報告検討会

担当部門 : 研究機構

連絡先 : 電話 059-340-1614 メール : zumi@yokkaichi-u.ac.jp

## 7-6 四日市学研究会

### 活動の目的と経緯

四日市学研究会は平成 17 年 3 月に活動を開始し、四日市を中心とする北勢地域について歴史、自然、文化、社会、経済など様々な視角から幅広く学び、研究し、その研究成果を地域社会に寄与できる参考情報として蓄積し、公表してゆくことを目的とした研究会です。これまでに、歴史遺産、伝統文化、自然環境、産業構造、都市行政など、いろいろな分野の現状を把握し、今後の地域の発展を考えていくために、講演会やシンポジウムを毎年、実施してきました。

それら講演会やシンポジウムについて、特に記録しておくべき価値のあるものを『四日市学講座』シリーズとして、ブックレットにまとめて公表してきました。平成 30 年度までに第 1 号から第 14 号まで発刊しています。こうして、ブックレットにまとめた成果をできるだけ広く地域社会に公表してゆくため、大学内、暁学園内はもちろん、大学関係団体や学生保護者、さらには学外諸機関や一般市民の皆さんに対しても、希望者には、残部数のある限り、ブックレットを無料で頒布しています。

### 活動内容と実績

平成 30 年度は、12 月 6 日に学内で「四日市学シンポジウム 2018：地域社会の課題を教材として学ぶ～暮らしやすさ・働きやすさの向上をめざす NPO との連携に関する事例報告～」というテーマで、具体的な課題をめぐって地域と連携する大学のあり方について、闊達な議論を展開するシンポジウムを開催しました。第 1 部では、4 つの項目で基調報告・事例報告が行われました。それらは、「地域社会の課題と四日市大学」(松井真理子・本学副学長・教授)、「ユニバーサル・デザイン・タウン四日市を目指して、今私たちにできること」(伊藤順子・NPO 法人 UD ほっとねっと代表)、「多様な人たちが働きやすい環境づくり～子育て・病気の治療と仕事の両立支援を通して」(加藤真理・NPO 法人ワークスタイル・デザイン代表)、「学生潜入レポ !! 人にやさしい三重の企業」(鶴田利恵・本学教授)です。第 2 部では、本学総合政策学部・岡良浩准教授の司会進行により、パネルディスカッションが開催され、パネリストとして、第 1 部での 4 名の講演者に加え、さらに、実際に地域活動に参加した学生からの事例報告として、総合政策学部 3 年生の大塚阜真(松井ゼミ所属)、同 3 年生の大谷拓真(鶴田ゼミ所属)による活動状況の発表もあり、それらを踏まえて、会場全体での質疑応答などを通じて、議論の深化がなされました。このシンポジウムでの議論の内容はブックレットにまとめられ、平成 31 年 3 月に『四日市学講座』第 14 号として発刊されました。



### 今後の計画

平成 31 年度も適切なテーマを設定し、講演会又はシンポジウムを開催していく予定です。

**担当部門** : 四日市学研究会

**連絡先** : 教学課(四日市学研究会事務局) 電話 : 059-365-6716 メール : ueoka@yokkaichi-u.ac.jp

## 8. 四日市大学に事務所を置く NPO 等

### 8-1 四日市北ロータリークラブ

#### 活動の目的と経緯

ロータリーは、地域社会のボランティアから成る世界的なネットワークです。

世界中の事業・専門職務のリーダーや地域社会のリーダーであるロータリーの会員は、人道的奉仕活動を行い、職業における高い道德基準を奨励し、世界中で友好と平和を築くために尽力しています。

#### 活動内容と実績

##### ◆四日市大学留学生への支援

学業優秀で経済的理由による修学困難な学生に対して教育支援として奨学金授与と日本語弁論発表会への後援



##### ◆四日市大学ローターアクトクラブのスポンサークラブとして支援

H27.7.10 設立の四日市大学 RAC 活動への支援を行い、当クラブとの共同奉仕活動を実施

写真：【羽津山緑地垂坂公園早朝クリーンウォーキング】

早朝よりウォーキングをしながら清掃活動を実施



##### ◆あさけプラザ図書館への児童図書寄贈

図書館開館以来 30 年以上毎年児童図書を寄贈

『四日市北ロータリークラブ文庫コーナー』を開設していただき本とふれ合い読書を楽しむ環境の整備

##### ◆障がい者支援施設での表彰

四日市社会福祉法人 四日市福祉会 障がい者支援施設  
垂坂山ブルーミングハウスにて勤勉に職務に就いている方の  
功績を称え表彰



##### ◆青少年交換事業の実施

国と国との関係を育み、平和な世界を築くというロータリーの世界的使命により、海外に於いて一年間の貴重な体験を通して、異文化交流、国際交流を深め、国際理解、国際親善を促進し明日の指導者である青少年を育成するための交換学生事業を実施

##### ◆北星高校への支援

成績優秀で学習意欲のある生徒を対象に、地域社会に貢献する人材育成のため特別奨学金を授与



#### 今後の計画

今後とも継続し、新たな活動を展開できればと考えています。

**担当部門** : 四日市北ロータリークラブ

**連絡先** : 電話 059-363-0456 メール : ynrc@vega.ocn.ne.jp



## 8-2 NPO 法人市民社会研究所

### 活動の目的と経緯

NPO 法人市民社会研究所は、平成 16 年 11 月に設立された NPO で、①公共社会を担う個人としての市民の成長(市民教育)、②誰にも居場所のある社会づくり(社会的包摂)、③市民活動団体の連携による力強い市民セクターの形成を目指しています。四日市大学の 9401 室を本部事務局として賃借し、全体で約 20 名のスタッフのうち大学内で 1 人が働いています。四日市大学卒業生をこれまで 6 名雇用し、現在も 2 名が働いており、そのうち 1 名は事務局として活躍しています。

### 活動内容と実績

市民社会研究所の仕事は、大別すると①～④です。NPO の活動が大学生の成長や学習の支援につながるようにしたいと考えています。

- ① 市民教育：住民の人権学習会支援、ディベート、現代社会研究会など
- ② 課題を抱える若者の就労支援：北勢地域若者サポートステーション、伊勢おやき本舗
- ③ 市民活動の支援：NPO の支援、市民活動センターの指定管理など
  - \* 公益財団法人ささえあいのまち創造基金の事務局
  - \* NPO 法人みえ NPO ネットワークセンターの事務局
  - \* 東海市民社会ネットワークの事務局
- ④ ①～③に関する調査研究

特に平成 30 年度は、松井ゼミ(3 年生)と連携し、四日市みやげの新商品「四日市彩サブレ」を開発しました。学生にとっても NPO にとっても良い機会となりました。



### 今後の計画

市民活動のネットワークと大学との繋がりを生かし、よりよい地域づくりを目指します。

担当者：総合政策学部教授 松井真理子

連絡先：電話 059-363-3539 メール：mariko@yokkaichi-u.ac.jp

## 8-3 NPO 法人ワークスタイル・デザイン

### 活動の目的と経緯

ワークスタイル・デザインは、育児中や病気の治療中の人など働くことに制約のある人が、多様な働き方で、就労継続できる社会になることを目的に、キャリア形成支援や働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

平成 26 年 11 月、NPO 法人発足。平成 28 年 10 月から四日市大学内 4701 号室に拠点を置き、総合政策学部の鶴田ゼミと連携した活動を開始。働き方改善に取り組む地域の企業を学生リポーターが取材し事例を紹介することや、柔軟な働き方やダイバーシティについての勉強会を開くことなどにより、働きやすい環境づくりが地域に広がることを目指しています。

### 活動内容と実績

「誰もが いつからでも 夢を描ける社会」を目指して活動しています。

#### ① 地域に働きやすい環境を広める活動

- 鶴田ゼミと連携：「学生潜入レポ！人にやさしいみえの企業」
  - ・ 学生リポーターによる企業取材：テレワークに取り組む企業 (SUNATEC)の事例を情報誌及び HP で紹介(写真 1)
  - ・ 「ダイバーシティ」勉強会を開催(講師：三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課職員)H30.7.12(写真 2)
  - ・ 四日市学シンポジウム 2018「地域社会の課題を教材として学ぶ～暮らしやすさ・働きやすさの向上を目指す NPO との連携に関する事例紹介」にて事例報告 H30.12.6

#### ② キャリア形成支援(行政・企業・教育機関の広報活動支援)

- 学生情報局 広報誌「CLOVER」vol.1・2 編集協力(写真 3)
- 松井ゼミ「四日市街なかお楽しみマップ」編集協力

#### ③ がん患者の治療と仕事の両立支援

- 女性がん患者サロン「ぴありぼんカフェ」運営  
(四日市看護医療大学・患者会と連携)
- 情報誌「ぴありぼん」vol.1・2 編集発行(写真 4)

#### ④ がん検診啓発活動(よっかいちキャンサーリボン実行委員会事務局)

- ピンクリボンイベントの企画運営



学生取材の様子



勉強会の様子



学生情報局広報誌



「ぴありぼん」

### 今後の計画

働き方改善を地域の企業に促すために、学生と連携して、ダイバーシティや柔軟な働き方に関する研究に取り組んでいきます。

**担当部門** : NPO 法人ワークスタイル・デザイン

**連絡先** : 電話 059-340-9330 メール : info@wsdesign.o

## 8-4 一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会

### 活動の目的と経緯

(一社)四日市大学エネルギー環境教育研究会は、第1に、ESD(Education for Sustainable Development 持続可能な開発教育)の浸透のため「環境教育」を公的機関にて「未来を見据えることができる人材育成」を実施しています。第2に、地域に繁茂する孟宗竹の荒廃竹林を、間伐し粉にして土壌改良材として圃場に活用。健全で栄養価の高いお米や野菜の生産を目指し市民の消費者へと「地域循環型社会づくり」の研究を行っています。第3に、「農業塾」を年8回開催。放棄耕作地の問題や気候変動による圃場の健全化により、美味しい栄養価の高い農産物を目指します。第4に、国連が国際社会に幸福を目指すSDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)の普及推進も進めています。

上述の4つの柱は相互に関連して、地域社会貢献事業として実施しています。

### 活動内容と実績

現在、4年目で進行中の活動伊勢竹鶏物語～3R プロジェクト～Part2では、自然環境が変質する里山保全活動を体系的に学術的に、四日市大学の研究者や行政そして地域団体とつながり実施しています。

四日市市北部では里山の荒廃は顕著で、外来種であるモウソウチク(孟宗竹)の林の面積拡大、ナラ枯れ被害、そして獣害被害などといった生態系や生物多様性の劣化が起きています。これらを問題視している研究会では、竹をはじめとする植物を適正に間伐し、扱いが困難な竹は粉碎して田畑の土壌改良材として活用し、平成32年には、竹粉の有効性を明らかにする実証試験結果を行政に提案して、地域が未来まで持続すべく行政に政策改革の提言するため、地域連携で取り組んでいます。

これらは未来社会の持続的健全化を目的としているものです。

- 1)里山の樹木の健全度
- 2)獣害対策
- 3)繁茂する竹を土壌改良剤としての活用
- 4)市民の環境保全の考えや意識醸成

こういった問題点は、一般に余り知られていないため、自然環境や生物多様性の現状を学び、未来を創る「人材育成」で3,289名に伝えてきました。心に行動に確実に届いたかの作文を募集したところ411通が集まり、これらを披露し表彰する「発表会」を開催しました。



実証試験:竹粉を投入することで、水田土壌に含まれる栄養素などの変化を見る。

平成32年には、行政へ実証試験の成果を提言し、市の法規制を改正することになれば、地域の大きな変革となる。

### 今後の計画

4つの活動で、児童らを中心に「自然の大切さ」を伝えてきましたが、企業・団体・事業者そして他県へと広げて、パリ協定や現状の地球環境を鑑みて、地域から課題改善と人材育成の実施で、限りなく深くSDGsに向けて、多様な分野の方々と研究会と力を結集して進めていきたいと考えます。

担当部門 : (一社)四日市大学エネルギー環境教育研究会 (HP <http://www.yokkaichi-ene.com/>)

連絡先 : 電話 090-5860-7521(矢口芳枝) メール : [info@yokkaichi-ene.com](mailto:info@yokkaichi-ene.com)



## 8-5 四日市大学自然環境教育研究会

### 活動の目的と経緯

地域の自然環境の保全・保護活動と自然環境を活かした環境教育を四日市大学と共同で推進するために平成19年に本研究会を結成しました。これまでに、植樹やアレチウリの駆除、シデコブシの保全・保護、ブナ林の調査・保全など数多くの活動に取り組んできました。中でも一級河川「内部川」河川敷での特定外来生物「アレチウリ」(うり科)駆除は13年目となります。この取り組みは、本会メンバーが内部地区社会福祉協議会環境部に発案したことに始まり、以来、地域の環境イベントとして自治会・内部中学校、事業者、そして、河川管理者の国交省・三重県・四日市市などの協力を得て実施されています。今日では、伊勢湾流域圏の三重県、愛知県、岐阜県、名古屋市が連携する「伊勢湾 森・川・海のクリーンアップ大作戦」に登録し、伊勢湾の豊かな生物資源の保護にも寄与しています。

### 活動内容と実績

近年、伊勢湾の海洋汚染はプラスチックごみをはじめ海岸漂着ごみ(灌木・流木の8割超え)が大きな問題となっています。このため伊勢湾に流入する「内部川」から“自然ごみ”を減少させようと、平成19年より特定外来生物「アレチウリ」の駆除が始まりました。この植物は河川に多く、繁殖力旺盛なつる性植物で、他の植物に巻き付いて覆い被さるため“光合成”を妨げられた植物は枯死し、“自然ごみ”となって伊勢湾へ流出します。一方、この地域での河川希少植物クサソテツ・コウヤワラビ、河川沿い林縁部の絶滅危惧種タシロランなど在来種の生態系にも影響がおよんでいます。

このため、アレチウリ駆除は、内部地区の豊かな自然を守ることのみならず、“自然ごみ”を減少させ伊勢湾の豊かな生物資源を保護する上で大変重要です。この活動に、本会メンバーがスタッフとして技術指導・環境教育をはじめ、アレチウリ特性(種子シードバンク・休眠)や、繁殖エリアの変化など、毎年、半年間におよぶモニタリングを行い翌年の駆除計画に反映します。この繰り返しと駆除活動の継続によりこれまでに90%以上を駆除しました。しかし、完全駆除(全滅)には至っていません。

内部川(内部地区)アレチウリ駆除推移

回数	年 度	参加者(人)	駆除数(株)	駆除数(株/人)	エリア数
			—	—	3
2	2008	300	∞	—	3
3	2009	340	80000	235	4
5	2011	260	50000	192	4
6	2012	260	10000	38	3
7	2013	210	3000	14	3
8	2014	70	5000	82	4
9	2015	110	6500	59	4
11	2017	338	8500	25	5
12	2018	321	6600	21	5



アレチウリ実生



アレチウリ駆除活動

### 今後の計画

内部地区での更なる継続と、内部川全流域での取組が不可欠なため、今後、下流域の河原田地区・塩浜地区にも呼びかけ、地域間連携に発展させた取組を目指します。

担当部門 : 四日市大学自然環境教育研究会

連絡先 : 保黒時男(代表者) 電話 059-346-1282 メール : hoguronature@oboe.ocn.ne.jp

## 8-6 四日市東日本大震災支援の会

### 活動の目的と経緯

東日本大震災の被災地の復興と国内外の大規模災害の支援を目的に、四日市大学が中心となって、大学生・高校生・一般市民とともに活動しています。東北では、平成 23 年 5 月からは泥かきなどの災害ボランティア活動を、平成 24 年からは仮設住宅の交流支援を行ってきました。また、東北だけでなく、継続的に災害発生した場合には災害ボランティア活動をしています。

### 活動内容と実績

支援の会では、平成 31 年 3 月までに合計 65 回、延べ 2149 名がボランティア活動を行いました。この間、東紀州水害で被害を受けた三重県紀宝町、内水氾濫の被害を受けた四日市市内、京都府亀岡市の水害被害、関東・東北豪雨、熊本地震、西日本豪雨でも災害ボランティアを派遣しました。

<平成 30 年度の被災地支援活動>

- ★第 53 回活動報告…平成 30 年 4 月 20～22 日 ; 宮城県東松島市あおい地区「春まつり」
- ★第 54 回活動報告…平成 30 年 5 月 11～13 日 ; 熊本県西原村仮設住宅支援
- ★第 55 回活動報告…平成 30 年 6 月 8～10 日 ; 宮城県東松島市災害公営住宅支援
- ★第 56 回活動報告…平成 30 年 6 月 29～7 月 1 日 ; 熊本県西原村仮設住宅支援
- ★第 57 回活動報告…平成 30 年 7 月 19～20 日 ; 岡山県矢掛町災害ボラ
- ★第 58 回活動報告…平成 30 年 8 月 6～8 日 ; 県教委学校防災ボラ事業 ; 東北
- ★第 59 回活動報告…平成 30 年 8 月 17～19 日 ; 宮城県東松島市「青森ねぶたと夏まつり」
- ★第 60 回活動報告…平成 30 年 9 月 14～16 日 ; 熊本県西原村仮設住宅支援
- ★第 61 回活動報告…平成 30 年 11 月 9～11 日 ; 熊本県西原村仮設住宅支援
- ★第 62 回活動報告…平成 30 年 12 月 13～16 日 ; 宮城県東松島市イルミ点灯式
- ★第 63 回活動報告…平成 31 年 2 月 1～3 日 ; 熊本県西原村仮設住宅支援
- ★第 64 回活動報告…平成 31 年 3 月 1～3 日 ; 熊本県西原村仮設住宅支援

<四日市市消防団(機能別団員)活動と防災士資格取得>

支援の会による被災地支援に参加し、防災士資格を取得又は取得予定の大学 1・2 年生が、平成 30 年 11 月 1 日に 7 名が入団し、継続して活動している 13 名とあわせて 20 名が四日市市内の地域・学校での防災イベントで啓発活動や講話を行いました。また、定期的に大学内で炊き出しや避難所運営の訓練を行いました。この学生消防団員が中心となり、防災士養成研修講座(地域科目「地域防災」の一部)において、避難所運営研修、災害ボランティアセンター運営研修、普通救命講習などの運営をしました。

### 今後の計画

宮城県東松島市、福島県葛尾村、熊本県西原村の支援活動と、近隣で発生する災害ボランティアが活動をします。また四日市市などと連携し、三重県における地域防災についても活動する予定です。

**担当組織** : 四日市東日本大震災支援の会

**連絡先** : 総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話 059-340-1902 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

## 8-7 メディアネット四日市

### 活動の目的と経緯

昨今、技術進歩によって急速に通信速度が高速化して、視聴されるコンテンツが通信(インターネット)及び放送において画期的に変革が遂げられ、ますます映像の利用が図られることが期待されます。

発足 10 年を迎えるメディアネット四日市は、そんな四日市での映像を通じた活動の数々を、幅広い年齢層の地域の皆さんに知っていただくべく、映像作成を続けています。

また近年はインターネットやスマホなどの普及により、誰もが気軽に映像を制作でき、そして映像を多くに人々に見ていただける環境が整っています。

そんな時代にあつてメディアネット四日市では、より多くの地域の皆さんに、自身の活動や思いを伝えられるような映像を作っていただけるよう、地域の映像作り文化の普及に向けた活動も継続的に行っています。特に平成 31 年度は四日市の観光を皆さんに知っていただくことに特化して活動をしていきたいと思っています。

### 活動内容と実績

当会は四日市の行政や市民活動団体からの依頼を受けるなどの形で、四日市のイベント・文化・伝統・各地域のまちづくり、催し物などを紹介する映像を作成しています。

そして作成した映像は、当会のホームページ(<http://medianet-yokkaichi.com>)や映像ポータルサイト「よっかいち映像広場(<http://yokkaichi.tv>)」、三重県下の観光を紹介する([miekatsu.com/](http://miekatsu.com/))などのインターネットを通じて情報発信し、より多くの地域の人々に四日市の良さを知っていただくべく取組を行っています。

また初心者の方にも理解いただける内容での「市民映像講座」も、四日市の地域住民を対象に毎年 1 回開催しており、より多くの地域の人々に映像作りにチャレンジしていただくための活動も続けています。

### 今後の計画

昨今のスマホ及びタブレットの普及に対応した映像に関する活動を、新たな軸として進めてゆくとともに、平成 31 年度は、四日市の観光又は幅を広げた三重県下の観光を紹介する活動を展開します。まず、地域を多くの住民に知っていただき、地域を愛する心を育み、社会に貢献していただきたいと願います。それにより、ますます四日市及び三重県の良さを地域の皆様とともに再発見していければと考えています。

**担当組織** : メディアネット四日市

**連絡先** : 久保田領一郎 電話 059-329-6020 メール : [medianet@aurora.ocn.ne.jp](mailto:medianet@aurora.ocn.ne.jp)



# 資料編



## 資料編 A 学外委員会での活動(委員会名・役職名のリスト)

この資料は四日市大学に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に教員が個人的に学外組織の委員を務めている場合もあり、それらについては四日市大学自己点検評価報告書をご覧ください。

教員

※各種試験に関する活動は、公平性を保つため、伏字にしているものがあります。

氏名	派遣先	内容
岩崎 恭典	四日市市文化まちづくり財団	評議員
	桑名市	桑名市空家等対策協議会委員
	亀山市	亀山市まちづくり基本条例推進委員会委員長
	伊賀市	伊賀市地域活動支援事業審査会委員長
	伊勢市	伊勢市市民公益活動促進委員
	尾鷲市	尾鷲市情報公開審査会委員
	尾鷲市	尾鷲市個人情報保護審査会会長
	東員町	東員町地域公共交通会議委員・座長
	菰野町	町政円卓会議委員・座長
	朝日町	朝日町地方創生推進会議委員
	三重県教育委員会	教育委員
	三重県教育委員会	学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究(高等学校)に係る学力向上推進協議会委員
	三重県	みえメディカルバレー推進代表者会議委員
	三重県	南部地域活性化推進協議会委員
	皇學館大学	外部評価委員
	愛西市	行政アドバイザー
	北名古屋	北名古屋市行政改革推進委員会委員長
	岩倉市	岩倉市行政経営プラン推進委員会委員長
	川西市	川西市参画と協働のまちづくり推進会議委員長
	大口町	大口町行政経営審議会委員
国際環境技術移転センター	評議員	
四日市北ロータリー	会員	
岡 良浩	鈴鹿市	鈴鹿市都市計画審議会専門委員
	四日市商工会議所	四日市商工会議所選挙管理委員会委員

氏名	派遣先	内容
岡 良 浩(続き)	亀山商工会議所	亀山商工会議所活動計画策定委員会委員
	三重県	みえメディカルバレー企画推進会議委員
	三重県	三重県公共事業評価審査委員会委員
	三重県北勢地域地場産業振興センター	評議員
杉 谷 克 芳	高齢・障害・求職者雇用支援機構三重支部	運営協議会委員長
鶴 田 利 恵	四日市港管理組合	四日市港港湾審議会委員
	三重県	三重県固定資産評価審議会委員
	三重県	三重県卸売市場審議会委員
	三重県	三重県政府調達苦情検討委員会委員
	三重県	三重県港湾審議会委員
	桑名市	桑名市上下水道事業経営審議会委員
	名古屋市	名古屋市上下水道事業経営有識者会議メンバー
	名古屋国税局	名古屋国税局土地評価審議会委員
	名古屋港管理組合	名古屋港審議会委員
	名古屋港管理組合	新舞子ポートパーク指定管理者選定委員会委員
岩 崎 祐 子	四日市市	四日市市下水道事業運営委員会委員
	四日市市	四日市市教育施策評価委員会委員
	四日市市	四日市市特別職報酬等審議会委員
	四日市市	四日市市中学校給食基本構想・基本計画策定支援業務委託プロポーザル審査委員会委員
	四日市市	四日市市雇用優良事業所選考委員会委員
	四日市市	四日市市優秀技能者選考委員会委員
	四日市市	四日市市男女がいいきと働き続けられる企業選考委員会委員
	伊勢市	伊勢市指定管理者選定委員会委員
	伊勢市教育委員会	伊勢市観光文化会館指定管理者選定委員会委員
	三重県	三重県産業功労者表彰候補者選考委員会委員
	三重県	三重県国民健康保険運営協議会委員
	三重県	三重県公立高等学校協議会委員
	三重県信用保証協会	情報公開審査会運営委員

氏名	派遣先	内容
富田 与	四日市市	四日市市中学校給食基本構想・基本計画策定委員会委員
永井 博	四日市市	四日市市文化功労者選考委員会委員
	三重県立四日市商業高等学校	学校関係者評価委員
	三重県立いなべ総合学園高等学校	学校関係者評価委員
奥原 貴士	四日市市	四日市市指定管理者選定委員会委員
	三重県	三重県公益認定等審議会委員
小川 東	人間文化研究機構	資料活用連絡協議会(数学)委員
武本 行正	四日市市	四日市市環境保全審議会委員
	三重県	三重県公害審査会委員
	三重県	三重県公害事前審査会委員
	三重県	地方自治法第174条第2項に基づく専門委員
	いなべ市	いなべ市水道水源保護審議会委員
	いなべ市	いなべ市環境審議会委員
	三重県環境保全事業団	技術アドバイザー
	日本雨水資源化システム学会	日本雨水資源化システム学会評議員
千葉 賢	四日市市教育委員会	ESD推進会議 委員
	三重大学	大学院生物資源学研究科附属練習船教育関係共同利用運営協議会委員
	三重県	三重県海岸漂着物対策推進協議会委員
	三重県	伊勢湾再生連携研究事業委員
	いなべ市	いなべグリーン・ツーリズム推進委員
	日本環境衛生センター	平成30年度海洋ごみ削減のための複数自治体等連携による発生抑制対策等モデル事業等検討会委員
前川 督雄	文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター	専門調査員
加納 光	三重県国際交流財団	評議員
木村 眞知子	三重県	第76回国民体育大会三重県準備委員会専門委員会委員
	三重県	三重県屋外広告物審議会委員長
牧田 直子	桑名市	桑名市環境審議会委員
大八木 麻希	三重県	伊勢湾再生連携研究事業委員

氏名	派遣先	内容
大八木 麻希(続き)	三重県	三重県環境審議会委員
松井 真理子	四日市市	四日市市男女共同参画審議会委員長
	四日市市	四日市市人権施策推進懇話会委員長
	四日市市	四日市市立図書館協議会委員
	四日市市	四日市市障害者施策推進協議会委員長
	四日市市	四日市市ごみ減量等推進審議会委員
	亀山市	亀山市協働事業選定委員会委員長
	亀山市	亀山市協働事業提案制度あり方検討委員会委員長
	亀山市	亀山市市民参画協働事業推進補助金選定委員会委員長
	亀山市	亀山市地域活性化支援事業補助金選定委員会委員長
	三重県	みえ地方創生多分野産学官連携推進会議委員
	三重県	三重県多文化共生推進会議委員長
	南伊勢町	南伊勢町人権施策審議会委員
	環境創造研究センター	環境省中部環境パートナーシップオフィス運営会議委員
	鬼頭 浩文	四日市市
四日市公害と環境未来館		四日市公害と環境未来館協議会副会長
三重県教育委員会		学校防災アドバイザー
小林 慶太郎	四日市市	四日市市総合評価方式事後評価委員会委員長
	四日市市	四日市市選挙管理委員会委員
	四日市市	四日市市多文化共生推進市民懇談会座長
	四日市市	四日市市公契約審議会会長
	三重県	三重県公共工事等総合評価意見聴取会委員
	三重県	三重県事業認定審議会会長
	三重県	みえ森と緑の県民税評価委員会副委員長
	三重県	事業改善に向けた有識者懇話会外部有識者委員
	三重県教育委員会	三重県教育改革推進会議委員
	鈴鹿市	鈴鹿市公の施設の指定管理者選定委員会委員長
	東員町	東員町教育委員会事務事業評価委員会会長



氏名	派遣先	内容
小林 慶太郎(続き)	三重県地方自治研究センター	副理事長
	四日市港管理組合	公正入札調査委員会副委員長
	名古屋市	旧名古屋市立亀島小学校体育館敷地等活用事業者評価委員
	知多市	第5次総合計画の推進に係る有識者会議メンバー
	知多市	知多市次期行財政プラン策定に係る有識者委員
	日本私立大学連盟	教学担当理事者会議幹事会委員
	四日市とんてき協会	代表理事
	CTY-FM	番組審議委員会委員長
神長 唯	四日市公害と環境未来館	ボランティア解説員
	四日市港管理組合	四日市港港湾審議会委員
	三重県	三重県人権施策審議会委員
	三重県	三重県廃棄物施策推進会議委員
	三重県	三重県環境審議会専門委員
	三重県	三重県事業認定審議会委員
	三重県	三重県男女共同参画審議会委員
本部 賢一	四日市市	四日市市開発審査会委員
	三重県	三重県国土利用計画審議会委員
	三重県	三重県開発審査会委員
	中部地方整備局	総合評価審査委員会三重県地域部会委員
三田 泰雅	桑名市	桑名市都市計画審議会委員
	三重県	三重県男女共同参画審議会委員
	三重県	圏域マスタープラン策定検討委員会委員
	三重県	都市計画区域マスタープラン策定検討委員会委員
小泉 大亮	愛西市	愛西市健康なまちづくり事業推進委員会委員

事務職員

氏名	派遣先	内容
小田久洋	公正職業安定所	公正採用選考人権啓発推進員
伊藤直司	三重県サッカー協会	理事・学生連盟委員長
	全日本大学サッカー連盟	理事
	東海学生サッカー連盟	副委員長・技術委員
佐藤信行	桑名市テニス協会	役員
木下隆司	東海地区大学野球連盟	理事

## 資料編 B 学外での講演活動

この資料は四日市大学に依頼のあった講演のみを示します。この他に、教員が個人的に学外からの講演依頼を引き受けている場合もあり、それらについては自己点検報告書をご覧ください。

氏名	派遣先	内容
岩崎 恭典	愛知県	平成 30 年度キャリアアップ研修 講師
小林 慶太郎	四日市市	平成 30 年度四日市市熟年大学専攻課程 講師
	岩倉市	職員協働研修 講師
	長久手市	みんなでつくるまち条例施行記念シンポジウム 講演講師
松井 真理子	四日市市	平成 30 年度四日市市熟年大学教養課程 講師
	桑名市自治会連合会	桑名市自治会連合会定期総会講演会 講師
	亀山市	平成 29 年度実施協働事業報告会・「協働」講演 講師
	亀山市	協働研修会 講師
鬼頭 浩文	四日市市	平成 30 年度四日市市熟年大学教養課程 講師
	津市公立小中学校・義務教育学校 教頭会	第 2 回全体研修会 講師
	三重県	MIE 職員カアワード発表会 講師
	三重県教育委員会	学校防災リーダー等教職員研修会 講師
	三重県教育委員会	中高生防災サミット コーディネーター
	三重県生涯学習センター	みえアカデミックセミナー2018 移動講座 講師
千葉 賢	三重県環境学習情報センター	平成 30 年度環境基礎講座 講師
	三重県	平成 30 年度伊勢湾海・川・森のクリーンアップ大作戦 参加団 体交流会 講師
永井 博	四日市市	平成 30 年度四日市市熟年大学専攻課程 講師
富田 与	四日市商工会議所	国際経済特別委員会講和 講師
山本 伸	三重県生涯学習センター	みえアカデミックセミナー2018 講師
神長 唯	三重県環境学習情報センター	平成 30 年度環境基礎講座 講師
三田 泰雅	三重県	市町主管課長会議講演会 講師
廣住 豊一	四日市市教育委員会	平成 30 年度教職員研修会 講師
	三重県立四日市農芸高等学校	環境学習講座 講師
大八木 麻希	三重県立四日市農芸高等学校	環境学習講座 講師
小泉 大亮	名古屋市高年大学鯉城学園	平成 30 年度専門講座 講師

氏 名	派 遣 先	内 容
伊 藤 直 司	四日市市立西朝明中学校	キャリア教育講演会 講師

## 資料編 C COC 事業ホームページに掲載した記事抜粋(平成 30 年度)

### COC 事業ホームページに掲載した記事タイトル一覧(平成 30 年度)

番号	投稿日	ニュース項目
1	04月20日	Job キャラバン 2018 in 四日市大学を開催
2	04月20日	今年度初の「四日市公害と環境未来館」との連携事業
3	04月26日	総合政策学部入門演習(ボランティアセンターの説明)
4	06月06日	平成 30 年度第 1 回四日市大学「地／知の拠点運営協議会」を開催
5	06月06日	学生潜入レポ！！～人に優しい三重の企業～「在宅勤務に取り組む法人を取材しました」
6	06月21日	平成 29 年度 COC 事業 点検・評価報告書を発行
7	06月25日	学生潜入レポ！！～人に優しい三重の企業～「近鉄四日市駅を取材しました」
8	06月26日	学生が四日市港クルーズ船のアンケート調査
9	06月15日	学生潜入レポ！！四日市市役所を訪問
10	07月27日	伊勢二見御塩みち活性化へ商品開発ワークショップを開催
11	08月07日	地元企業の魅力発見バスツアーを実施しました
12	08月23日	「平成 29 年度版 COC 事業報告書」「社会連携報告書」を発行しました
13	08月27日	学生ボランティア活動の様子(陽だまりの丘夏祭り)
14	08月10日	ロールプレイで四大公害を学ぶ(連携協定)
15	08月28日	エコキッズ夏休み講座「青空に、飛ばして君もヒコーキ名人！」
16	08月20日	エコキッズ夏休み実験講座「土はマジシャン！」
17	09月06日	エコキッズ夏休み体験講座「ふしぎな『え?』 錯視の世界へようこそ」
18	09月06日	地域連携スポーツフェスタを開催します
19	09月07日	冬のエコフェア「高校生の環境活動」発表者募集
20	09月01日	四日市市教育委員会夏季研修講座(大学連携研修)
21	09月11日	学生ボランティア「四日市徹夜おどり」
22	09月10日	公害の教訓を次世代につなぐ(環境省委託事業)
23	09月10日	温泉トマトの研究成果を学会で発表
24	10月04日	冬のエコフェア「高校生の環境活動発表会」出場高校が決まりました！
25	11月06日	平成 30 年度第 2 回四日市大学「地／知の拠点運営協議会」を開催
26	11月05日	「いずみ文化祭」に今年もバンド演奏
27	11月12日	留学生による外国語学校～「こども四日市」 in 諏訪公園～
28	11月27日	川島地区「里山フェスタ」に参加しました
29	12月04日	地域連携スポーツフェスタを実施しました
30	01月09日	第 5 回「わかもの学会」開催のお知らせ
31	01月31日	第 5 回「わかもの学会」発表者が決まりました！
32	02月04日	「第 5 回わかもの学会」を開催しました
33	02月08日	「卒業生調査」「卒業生就職先企業調査」報告書を刊行
34	02月15日	地域連携フォーラム 開催のお知らせ
35	02月15日	パンフレット「COC 事業レポート」発行のお知らせ

番号	投稿日	ニュース項目
36	02月22日	「COC事業 全体総括報告書」を発行しました
37	02月22日	「特定プロジェクト研究総括報告書」を発行しました
38	02月25日	三重県警察本部から二度目の感謝状
39	03月01日	地域連携活動パネル(平成30年度作成版)を公開しました
40	03月26日	地域連携フォーラム

以下、記事の抜粋。

#### ➤ 平成30年度第1回四日市大学「地／知の拠点運営協議会」を開催

COC事業にご協力・評価する協議会である、四日市大学「地／知の拠点運営協議会」の今年度最初の会議が、6月5日に開催されました。これは、COC事業の副申をさせていただいている三重県、四日市市を含む外部団体10団体と、本学教職員で構成する協議会です。

冒頭挨拶で、岩崎恭典学長が、最近発行された本学パンフレットを使用して、事業概要を説明しました。協議に入り、学外の協議員の方を中心に積極的にご発言をいただきました。この日の最初の協議事項は、平成29年度のCOC事業についての外部評価で、事前にお目通しいただいた資料に沿って、項目ごとに貴重なご意見を頂戴しました。特に、特定プロジェクト研究(A)で進める大型クルーズ船四日市港入港の経済効果についての研究には、高い評価をいただきました。また、昨今の企業の人手不足は深刻であり、地元志向教育に期待する声も挙がりました。

一方で、課題である地元企業と大学との連携をどのように深めるかについて、貴重なご意見をたくさんいただきました。これらをもとに、今後、個別にニーズ調査を行うこととなりました。これに関連して、多様なメディアを生かした組織同士の連携をご提案いただいた企業協議員もおられ、多方面から連携内容を検討していきます。

COC事業の最終年度を迎え、今後の具体的な継続方法や資金確保についても意見がありました。最終年度にふさわしく、より充実した事業を展開し、次につなげていきたいと考えております。







➤ 学生潜入レポ！！～人に優しい三重の企業～「近鉄四日市駅取材しました」

総合政策学部の鶴田ゼミでは、人に優しい取組を行っている企業を取材して、NPO 法人発行の雑誌やHPに掲載する活動を行っています。

今年度の第2弾は、近鉄四日市駅に伺い、障害者・高齢者のためのバリアフリーや安全面などにどのように取り組んでいるかを取材しました。

普通電車と特急電車の入り口の幅が違うため、車椅子のお客さんが乗車する時にはそれぞれに応じた用具で素早く対応するなど、学生たちは、様々な箇所できめ細やかな対応がなされていることを学びました。

完成記事は、後日、NPO 法人 UD ほっとねっとのHP(<https://ud-townnavi.net/>)に掲載予定です。





➤ 学生が四日市港クルーズ船のアンケート調査

6月24日(日)、クルーズ船・ダイヤモンドプリンセスの四日市港への初寄港にあわせて、学生がアンケート調査を実施しました。これは、COC 特定プロジェクト研究 A の一環として、四日市寄港の観光満足度と消費額などを調査するものです。研究を分担する松井・鶴田・岡・富田の4名の教員と、ゼミ生など11名の学生が実施しました。

韓国の釜山から到着した約2,600名(うち外国人約200名)の乗船客は、到着後、入国手続きをすませて上陸します。そのあとオプションツアーに参加したり、四日市の街中やショートツアーに参加したりしました。

当日は、三重県知事や四日市市長がご挨拶される歓迎セレモニーが行われました。また忍者ショーや諏訪太鼓など市民等による演奏や演舞もあり、地域の見学者も多数来られて、大盛況でした。学生たちもアンケート調査を通じて、お客様のニーズを感じていました。外国人観光客は、本学の留学生が積極的に調査を行い、満足度の把握を試みました。

調査結果は、随時、学生と教員が集計・分析等を行い、適宜、学会などで報告される予定です。



➤ 川島地区「里山フェスタ」に参加しました

四日市市川島地区と連携する協創ラボの一環として、同地区の「里山フェスタ」に総合政策学部の松井ゼミが参加しました。

## ▶ 地域連携スポーツフェスタを実施しました

大学として初めての企画として、スポーツクラブが一同に集まって地域の皆様と交流する「地域連携スポーツフェスタ」を実施しました。各クラブの公式戦が一段落した12月1日に、本学の指定強化クラブである7クラブの選手たちが参加。地域の皆様を対象としたスポーツ教室等を開催し、約140名の学外者を含め全体で約280名にご参加いただきました。受付や会場案内もクラブの選手やマネージャーが担当し、キッチンカーも出て賑わいました。オープニングでは岩崎恭典学長が「怪我のないよう、楽しい一日を」と挨拶。その後、各クラブに分かれてそれぞれ汗を流しました。この様子はCTYに取材していただきました。

サッカー教室に参加した9歳の男の子は「大きいお兄ちゃんたちと練習できて、すごく楽しかった」と大喜び。サッカーの後はアメフト体験教室にも参加し、楕円形のボールを蹴り続け、最後にバーを超えたときは周りの全員が歓声を上げました。ほかにも多くの方にお楽しみいただき、来年も来たいという声も多数いただきました。

最後はクラブ対抗リレーを実施。クラブ選手は2人3脚から5人6脚までを順番に行い、子どもチームは1人で、68メートルのサッカーのピッチを走り抜けました。優勝した硬式野球の子どもチームは、賞品を受け取って嬉しそうでした。最後は子ども全員が景品を受け取り、賑やかにキャンパスを後にしました。

ご参加いただいた皆様に、心から感謝いたします。



硬式野球



ソフトテニス教室



サッカー教室



ゴルフ教室





アメフト体験



硬式テニス(公開練習)



ストレッチ講習



ホッケー体験



受付も学生が担当



クラブ対抗リレー 子どもたちも参加



景品を受け取る子どもたち

➤ 「第5回わかもの学会」を開催しました

平成31年2月3日、じばさん三重5階大研修室にて「第5回わかもの学会」を開催しました。COC

事業としての開催は今年度までで、来年度以降は四日市大学学会が引き継いで実施します。

今回も、3学部から2組ずつ選抜された計6組の研究報告・活動報告がありました(発表内容はコチラ)。東京と地方との行政体制の違いを比較し、地震発生時に生き残れるのはどちらかを研究したもの、オリジナル楽曲を映像と組み合わせ、サラウンド音声で臨場感あふれる動画を制作したもの、地域の優良企業を題材に、良好な業績を維持できている理由や歴史的背景を考察したもの、アメリカのトランプ政権の貿易政策を分析し、今後を予測したものなど、多様な内容の発表がありました。各発表後の指導教員による補足説明では、学生が発表し切れなかった研究の意義や背景をわかりやすく伝え、その後、会場からの質疑応答を受け付けました。「学生らしい視線に好感が持てた」「現在進行中の事象を研究するのは専門家でも難しいが、その課題によく挑戦した」と励ましのコメントもたくさんいただきました。

発表後は審査が行われ、最優秀発表に輝いたのは、新しい四日市みやげとして開発したサブレの商品開発や販売戦略に取り組んだ「四日市サブレ」でした。優秀発表は、高松干潟に生息する希少な貝「オチバガイ」を研究した「高松干潟におけるオチバガイの生息」に授与されました。ジャンルの異なる発表内容を審査することは難しいことですが、審査結果に関わりなく、発表学生の全員が生き生きと充実した表情でした。

最後は、松井真理子副学長と李修二四日市大学学会長が挨拶し、会は終了しました。会場は満席で、110名もの方にご来場いただいて着席できない方も出てしまい、申し訳ありませんでした。ご関係の皆様方に心から御礼申し上げます。今後も、本学の学生を地域の方に見守っていただければ、本当に幸いに存じます。



学生の発表①



学生の発表②



学生の発表③(音と映像)



会場からの質問





会場からの質問に答える学生発表者



指導教員のコメント



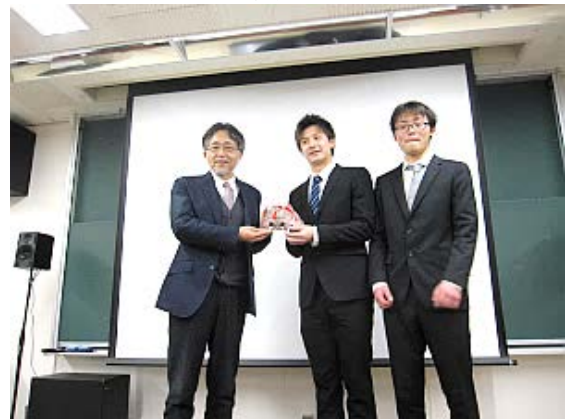
満員の会場



熱心にパネルに見入る来場者



表彰①



表彰②



学長と発表学生との集合写真



指導教員と一緒に



今後に向けて・・・四日市大学学会長挨拶

### ➤ 「COC 事業 全体総括報告書」を発行しました

四日市大学では、平成 26 年度から 5 年間にわたり、文部科学省から補助金を受けて「地(知)の拠点大学整備事業(COC 事業)」を進めてまいりましたが、平成 30 年度末をもって、補助金事業としては終了致します。

これを受けて、これまでの事業推進内容及び今後の継続のあり方について総括し、「COC 事業 全体総括報告書(平成 26 年度～平成 30 年度)」を発行致しました。

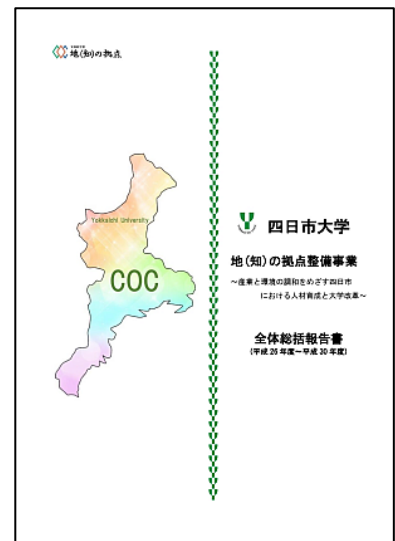
5 年間の事業を通じて、地域の皆さまにご指導を賜り、教職員・学生と地域をつなぐ力を高めるためにさまざまな仕組みをつくることができました。その詳しい内容について、報告書でご覧いただけます。

また、外部評価委員会による評価内容も掲載しており、地域とつながる「四日市大学のあり方の改革」として成果があったとのご意見をいただくことができました。これは、地域のお力をお借りすることができたことによる成果であり、多くの皆さまに大変お世話になったことを改めて感謝申し上げます。

補助金終了後も事業を通じて整備した仕組みを継続し、地域に存する大学として役割を果たしていきたいと考えております。今後の本学の役割についての考え方の一端を示すものでもありますので、特にこの地域の皆さまにご一読いただけましたら誠に幸いに存じます。

※冊子は、ご希望の方に無料でお送りしております。

(お申込先：四日市大学社会連携センター TEL 059-340-1927)



### ➤ 地域連携フォーラム

3 月 9 日、四日市大学 COC 事業の総括報告会として「第 4 回地域連携フォーラム」を開催しました。当日は、82 人の方にご来場いただき、COC 事業の成果報告と今後の事業計画、地域活性化のあり方などについて、講演やパネルディスカッションが行われました。

フォーラムは、岩崎恭典学長の開会挨拶で始まり、続いて松井真理子副学長が「COC 事業レポート」を用いて 5 年間の事業で作ってきた仕組みや活動内容を報告しました。学生活動など写真を多用したパンフレットを用いた説明は、わかりやすいと好評でした。

次に、地域活性化センター理事長の椎川忍氏をお招きし、記念講演「地域活性化に若者と大学が果たす役割」を行いました。「地域と大学とは構造が全く異なるが、異なるものが結合することにより新しい



ものが生まれる」「日本は成熟社会。その中でカギを握るのが教育」など、これからの地域連携のあり方についてお話しいただきました。

休憩をはさんで、これまでに発行した報告書を用いて、特定プロジェクト研究の報告を行い、続いてパネルディスカッションに入りました。岩崎恭典学長をコーディネーターに、藤井信雄四日市市副市長、西城昭二三重県戦略企画部部長、須藤康夫四日市商工会議所専務理事の3名がパネリストを務められました。本学と共にCOC事業を推進してこられた立場から、地域での大学のあり方や、これからの四日市地域が強みとして生かすべき交通の利便性、客船誘致などについて、貴重なご意見をいただきました。「あるものを生かす」というご意見は、記念講演で椎川氏が述べられた内容とも合致するものです。

COC事業は、補助金事業としては終了しますが、今後も事業を通じて整備した仕組みを継続し、生かしていく考えです。パネルディスカッションの最後に、岩崎学長が「COC事業の『最初の5年』が終わった、と考えている」と挨拶し、地域連携フォーラムは終了しました。

これまでご協力をいただきました多くの皆さまに、心より御礼申し上げます。有難うございました。



COC事業の報告



記念講演(1)



記念講演(2)



特定プロジェクト研究報告



パネルディスカッション(1)



パネルディスカッション(2)



会場の様子(1)



会場の様子(2)



パネル展示

**四日市大学社会連携報告書・COC事業報告書 平成30年度版**

制作 四日市大学社会連携センター